

固ならずして反覆分離を生じ、一部分はマンチニヤを首としてスバルタに依頼し、其他はテゲヤを首としてシーブスに依頼したり。紀元前三百六十二年の夏エバミノンダスは四たび南部希臘に進軍し、テゲヤに於て同盟の兵と相合し、而してスバルタ王アゲシラオスは兵を率ゐてマンチニヤに向ひたり。エバミノンダスは其虚に乗じて急にスバルタを襲ひたりしがアゲシラオス之を聞て直に軍を還し兩軍スバルタの市街に於て接戦したり。然れどもエバミノンダスは遂にスバルタを征服すること能はずして退去し、轉じてマンチニヤの虚を衝き之を陥れんとしたりしがアセンスの援軍到來して其の目的を達する能はざりき。エバミノンダスは奇計を運らして其の目的を達せんと欲したりしも其の事成らざりしかば最早や一大血戦を爲すの止むを得ざるに至れり。野戦に於て誰か彼に匹敵する者あらんや。而して勇將の下弱卒なく、軍隊は喜んで彼の號令に従はんことを希ひ、同盟のアルケデヤ人さへ恰かも祝祭に臨むが如く決戦の準備を爲したりき。マンチニヤとテゲヤとの間に海面を抜くこと二千呎而かも四方高山の爲に圍繞せられ延長凡そ十哩、幅員一哩乃至八哩の平原ありて其の北部にマンチニヤ及び

スバルタの兵集合したり。エバミノンダスはテゲヤより北進して敵に向ひ、一直線に迫らずして左方に轉じ、平原の西北なる岡に兵を停め兵器を疊みて將さに陣營せんとするの状を示したり。既に戦闘の準備を爲して待ち構へたる敵軍は之を見てエバミノンダスは當日戦ふの意なしと爲し、隊伍を亂し、馬轡を解きたりしがエバミノンダスは窈かに進撃の部署を定め、シーブス及びアルケデヤの精兵を以て左翼となし、中軍及び右翼は敵兵を牽制して左翼の大進撃を援助せしむることゝ爲し、先づ騎兵をして敵軍を突撃せしめたり。敵兵遽かに戦備を爲して之に應じ、マンチニヤ及び其の同洲人は右翼となりて全軍を指揮し、スバルタ、エリス及びアケイヤの兵中間に位し、アセンスの兵六千左翼となり、總計歩兵二萬騎兵二千にしてエバミノンダスの軍よりも多數なりき。此時の戦略はリユークトラの戦略と同一にして其の結果も同一に出で、敵の右翼先づ敗れて中軍を混亂せしめ戦勝は容易にシーブス人に歸したり。然れどもエバミノンダスが重傷を負ふて戰場より退きしが爲にシーブス人は十分に戦勝の結果を利用する能はざりき。エバミノンダスにして希臘第一の名將に非ざりせば此の不幸はなかりしならん。

然かも希臘人の習慣によれば大將は歩卒と同一の鎧を着け同一の武器を提げ、軍頭に立ちて闘ふの制にしてアセンヌ人は之が爲にシ、ロー遠征の名將ラマコスを失ひ、而してシーブス人は遂に之が爲に興國唯一の大政治家を失ふに至れり。エバミノンダスは丘の上にありて介抱せられしが忽ち自覺して最後の三問を發したり。第一は我が楯の所在なりき。従卒之を其の眼前に置きて敵に奪はれざりしことを示したり。第二は戦局の勝敗なりき。味方の軍勝利なりと聞きて彼は第三に其の信任したるアイレイダス及びダイファントスを招きて之に後事を託せんことを欲したり。然るに彼等も亦た既に戦死したりと聞きしかば彼は最期の勸告として「然らば敵と和を結ぶ可し」との遺言を爲し、命して其の胸中を貫きたる敵鎗の身を抜かしめ、悠然として瞑目したり。

#### エバミノンダスの人格

是の如くしてシーブスの名將は死し、是の如くしてシーブスの覇業は彼と共に亡びたり。ペロピダスの一舉はアセンヌ史に於けるクリスセニースの改革と同じく、シーブスをして忽ち貴族的寡頭制を脱し、一躍して民主制の市府となし、ビオシヤの全州を統一せしめたり。而してリユーク

トラの一戦は即ちシーブス史上のマランンにして防禦的戦争は攻撃的戦争に變化し、シーブスの全力は波斯の壓制に均しきスバルタの專横に對して傾注せられたり。エバミノンダス及びペロピダスの二人はアセンヌに於けるミルタイアディス、アリストタイデイス、セミストクリース及びカイモン等數多英傑の爲したる創業の偉勳のみならず、又たペリクリースが三十年間に於ける守成の功勞をも兼有したりき。彼の二人は從來遲鈍にして名譽なかりしシーブス人に光輝を放たしめ、凡そ希臘人たるの資質は地方的にあらずして其の市民の人格に存することを證明したり。彼は北部希臘の地下に骨を埋め、此は南部希臘の原頭に命を殞し、兩友の遺體は南北に分れて横はりしも、其の精神は一に歸してシーブスの威勢の南北に膨脹したる遺表とはなりたりき。彼等は管仲鮑叔と同じく、朋友の信義國家隆盛の基礎と爲る歴史上の最大教訓を遺したり。特にエバミノンダスは正々堂々の政策を用ひて、權道によるを欲せず、短日月の間功業一世に冠たるも、自己の名譽利達を計らずして公共の福祉に貢獻せんことを勉めたり。アセンヌ衰へて後シーブスをして之に代り文化の理想を繼續せしめたる勢力は實に彼れの偉大にして

且つ優美なる人格に存したり。彼が宗教上の迷信を脱したりしことはソクラテスの上に出で、其の志望の高尙にして全希臘的なりしことは歴山大王の好摸範となるに足り、其の戦略はハンニバルに酷似し歴山大王、フレデリック大王及びナポレオン第一世の兵法と同一なりき。彼は單に兵略に於てマセドン王の先驅となりしのみならず、マンチニヤ、メガロポリス及びメッセーネーの諸市を建設し、希臘の文化を遠近に分布したりしことも亦た歴山大王の模型となりたり。彼はシーブスの勢力を以てスバルタの擅制を除き、之に代りて正義の基礎の上に自由なる列國の一致結合を成就せんことを希圖したり。彼れは此の點に於てペリクリース以上の思想を有したり。ペリクリースは猶ほ希臘列國の諸人士と同じく第一アセンス人たり第二希臘人たるの主義なりしと雖どもエバミノンダスは同時に忠誠のシーブス人たり、希臘人たるの寛大なる度量を有し、其の品格の高潔なりしこと希臘史上第一の人なりしと言ふことを得べし。彼はペリクリースと同じく其の事業の後繼者を有せず、而して彼れと異にして子孫を遺さざりき。彼れの將さに死せんとするや一友泣て曰く卿は遂に子なくして死すと。彼れ答へて曰く我れ

二女子を遺す、リユークトラ及びマンチニヤの戦勝是なりと。

### 希臘列國の大勢

マンチニヤ戦勝の結果によりシーブスは新に領土を得有し若くは更に權力を擴張すること能はざりしと雖ども猶ほエバミノンダスの大事業を保存することを得たり。即ちメッセーネーの獨立、アルケデヤの聯邦は之が爲に維持せられて安全なることを得たり。列國は現状維持の條件を基礎として和約を締結したりしが獨りスバルタはメッセーネーの獨立を拒否して和約の承認に反對したり。然れどもスバルタの覇權はシーブスの爲に打破せられて又復活すべくも非ざりき。波斯戦争以前彼は希臘唯一の盟主たる位置を有し、該戦争中海陸兩道の總督たりしに拘はらず、其の位置を保つ能はずして僅かに南部希臘の上に覇權を有したり。波斯戦争の功業、デロス同盟の成立によりてアセンスは七十年間海上の覇權を有し、文化の上には優に希臘の首府たる勢望を有したりしも、スバルタ及び列國の猜疑によりて二十七年間戦争の後アセンスは其覇權を失墜して再びスバルタは三十三年の間全希臘の上に權勢を專にしたり。スバルタ人にして偉大なる政治的能力を有したりしならんには當時彼は全希臘を統

一する最大の好機會に際會したりしなり。然れどもスバルタの憲法は元來建國の基礎レコニャ一州を保つに適して希臘の列國を合一するに不適當なりしが故に第一人物に乏しく第二政治的能力に乏しく空しく列國の怨望を買ひ得たるのみに過ぎざりき。是に於て彼は再び希臘列國を統一するの任務に堪へずして其位置を失墜したり。一時シーブスは之に代りて全希臘に覇權を振ひしも、其實エバミノンダス一人の天才に依頼したる結果、九年の後彼れの戦死と共に又た本のシーブスたる位置に降下し希臘は三たび内部よりして統一に歸するの希望を失したり。是より後希臘列國間の嫉妬競争益甚しくして寧ろ内部の一國に支配せられんより外邦の干渉を誘引することを快と爲したり。スバルタが一たびアセンスを倒さんが爲に波斯に屈從せし以來列國は常に波斯の干渉を仰がざる可からざるに至り、エバミノンダスの偉功を以てしても波斯の認可なくしては希臘列國の甘心を得ること能はざるを發見したり。希臘は内部に於て紛争し内部に於て到底一致の望なく列國疲弊して又た波斯戦争時代の元氣を見るべくもあらざる状態に陥りたれば其の夷狄視したる外邦の爲に征服せらるゝに至るは自然の

傾向に外ならざりき。唯だ驚く可きは曩爾たる希臘諸市が自治を重んずる氣力の旺盛にして一致團結の組織もなく能く久しく其の自主獨立を維持したること是なり。

### 第九章 マセドニヤの盛時

マセドニヤの土地及び人民　マセドニヤ(マケドニヤ)は元來希臘本部に屬せず東はストライモン河を境としてスレースに接し、西は山脈を隔て、イリリヤに接し、北は同じく山脈によりてメーシヤに接し、南はカムブニ山によりてセッサリに接したり。其人民は希臘人によりて野蠻人即ち他人種と視做されたり。彼等は多分イリ、ヤ人と希臘人との混合なりしならん。而して彼等が希臘人によりて異邦人と視做されたりしは之が爲のみに非ざりき。何となれば希臘人の殖民地は同様混合民種多かりしこと事實なればなり。惟ふにマセドニヤ人が希臘人と視做されざりし所以は其の人種の少しく相異なる上に彼等希臘人と異にして市府的生活を爲さざりしが爲なる可し。希臘人は市府的國家を以て文明國民の特徴となし市民は共に集會して政治を議決し又た之を管理するを以て

自由の表號となしたり。然るにマセドニヤ人は田舎的生活を爲して農業獵業を事とし文學美術を有せず、而して一に君主の專政に任せたり。是れマセドニヤ人が開化したる希臘人に異人種として蔑視せられたる所以なりしならん。

マドセニヤの王室 是の如く人民は希臘人によりて異人種と視做されたりしも古來その王室は南部希臘アルゴスの王裔と稱し希臘人たることを認識せられオリンピアの大祭にも列することを許され、代々希臘の文化に倣はんことを勉めたり。創立の王はペルディッカス一世紀前七〇〇と稱し、漸次版圖を擴張したりしが第六代アミンタス一世紀前五二七に至り波斯の兵威を怖れて名義上の服従を爲し紀前五〇七十五年の後次王アレクサンデル一世紀前四九八は事實上波斯の將マルドニオスに服従したりしがプラターエーの戦後マセドニヤも亦波斯に獨立し再び膨脹の運に向ふとを得たり。第八代ペルデッカス二世紀前四五一の時アセンスの海上権力と衝突を生じたり。紀元前四百二十七年アセンスはスレースのストライモン河邊にアマフィポリス市を建設したりしがマセドニヤの版圖も亦た漸やく此の河上に達したりしが故にアセンスは種々の方策を運ら

してマセドニヤ王の權勢を弱くせんことを勉めたり。紀元前四百二十四年マセドニヤ王はスバルタの將ブラシダスを誘引してアセン스에復讐し大に其の勢力を挫きたり。第九代アルケレーオス紀前三九九の時アセンスは遂に衰弱したりしが王は兵制の改良、道路及び要塞の建設に心を用ひ、又た希臘より詩人及び工藝者を招きて文學美術の發達を奨勵し、首府をエーゲーより轉じて海上に近きペルラに移したり。是の如く希臘本部は戦争の爲に衰弊するに當りてマセドニヤは漸次興運に向ひ、其の人民は質朴勇敢にして且つ王室に忠實なりき。アルケレーオスの後一時内亂相起り恰かも彼得大帝以前に於ける露國の状態に似たりしが紀元前三百九十年アミンタス二世遂に内亂を平定したり。彼は三子を生み長子はアレクサンデル二世と稱し、トレミーの爲に弑せられ、四年間攝政の後次子ペルディッカス三世トレミーを殺して位に即き、イリヤ人と戦ふて死し、三子フィリップ二世立ちて希臘史上のみならず、世界史上に於ける大事變を生み出せしむるに至れり。

フィリップ二世紀前三五九 トレミー攝政の時シロプスの覇權はマセドニ

ヤに及びたり。當時フィリップは十五歳の少年なりしがマセドニヤとシープスと同盟の結果彼は質となりてシープスに往き、三年間此處に滞在したり前紀三六八五。彼は親しくエバミノンダスに接して其兵法及び政略に通じ又希臘の文學及び哲學を學びて後年希臘語を以て如何なる當世の辯士とも相競ふことを得るに至れり。彼はプレトロー(プラトン)にも面接せしことある可し。彼れは古今の大哲アリストーツル(アリストテレス)を友として後に歴山大王アレクサンデルの師と爲したり。彼は之が爲に希臘列國の形勢を熟知し、其の列國相嫉むや政略の以て乗ずべき間隙あり、又た其の相疲弊したる結果、兵力の容易に成功すべき機會あることを理解したり、而して彼れは是等の状態を利用するに十分なる天才を有したり。彼は聰明敏活にして功名心限りなく、容貌優美にして辯舌爽かに意思鐵石の如くにして如何なる危険をも恐れず其目的を達せざれば止まざるの資性を有したり。而して彼は兵力にのみ依頼せず策略によりて其の志望を遂ぐるの秘訣を知れり。彼は鐵を以てするよりも銀を以てして多くの市邑を畧したることを誇りたり。然れども兵を用ゆるの必要ある場合には何人も及ばざるの資格を有したり。何となれば彼

は大將の器量に加へて兵卒と共に如何なる艱苦をも凌ぎ得るの體格を有したればなり

### 其の外交政畧

當時マセドニヤは東海に突出するの道を開くを以て必要となしたり。然るに此の目的を達するに三個の妨害存したり。一はシープスの興起に乗じて復活したるアセンスの海上同盟、二はオリンソス同盟、三はアマフィポリス市にして三者相結合するときはフィリップは遂に其の目的を達する能はざりしならん。故にフィリップは三者をして其の真意の在る所を知らしめざらんことを欲したり。アマフィポリスはストライモン河上に在りてスレースの關門なりき。アセンス人は一たび之を失ふて以來再び之を得んと欲して止まざりしがオリンソス同盟も亦た之を其の同盟に加へんことを欲し一時アセンスと聯合してアマフィポリスを保護せんとするの傾向ありたり。二者の聯合成るときは即ちフィリップの計畫失敗す可し。是に於てフィリップは先づ二者の聯合を破らんと欲し、アセンスに交渉してアセンス若し其の領有地ビッドナマセドニヤマセドニヤをフィリップに讓與せばアマフィポリスを征服し且つ之れをアセンスに與へんことを

約してオリソス同盟との結合を絶たしめたり。オリソスの反抗を除かんが爲めこれにも一邑を讓與して後顧の患を去り即ちアマフィポリスを圍みて之を陥れ紀前五八而して直に又たビッドナを畧取したり。彼れ既にアマフィポリスを陥れ、又たビッドナを得たり。アセンス人に謝して曰く、ビッドナは貴國の讓與を待たずして我れ自から之を取ることを得たり、故に其の報酬としてアマフィポリスを贈與すること能はずと。アセンス人大に怒りしも既に及ばざりき。フィリップはアセンスが復讐を圖りてオリソス同盟と結托せんことを恐れ、オリソスにはアセンス人の占領したるポチデイヤを征服して以てこれを恢復することを得せしめたり。是の如く政略を以て兩敵の聯合を防ぎ、其の版圖を東海に擴張しストライモン河上の金坑を得て大に國庫の歳入を増加せしめたり紀前五七。是時希臘の内情は大にフィリップをして乘ぜしむるの機會を與へたり。アセンスは紀元前三百七十八年以來海上同盟を組織して大に其の面目を改め一時は同盟諸市を満足せしめたれども再び往昔デロス同盟時代の覇權を振ひしが爲に忽ち同盟諸市はアセンスに離叛して交戰數年に涉り大市悉く獨立するに至れり紀前

三五七。アセンスは之が爲に遂にフィリップの異志を逞くすることを防制する能はざりき。又中部希臘に於てはシープス衰へてフォークス人之れに従ふを欲せず、而してシープス人はデルファイの宗教會議二三四を利用して之を服従せしめんことを企てたり。第一神聖戰爭以來クリッサ人の土地を沒收して之を聖領と爲したり二八四。然るにフォークス人は此の聖領を耕耘して私益に供したり。是に於てシープス人はアマフィクテオニク會議をして過大の罰金を課せしめ之れを倒さんことを欲したり。フォークス人即ちデルファイの神殿を占領し其人民に課税して雇兵を募り且つ列國に使者を遣はして其の行爲の正當防衛なるを辯解したり。スバルタ及びアセンスはフォークス人に應援し全希臘又た兩黨に分裂しフォークスは遂にデルファイの聖庫を私用して兵を募り大に猖獗を極めたり。之を第二神聖戰爭と稱す紀前三四五。是れフィリップに向つて希臘の内事に干涉するの機會を與へたり。セッサリーの僭主リコフロンはマセドニヤの勢力を恐れてフォークスの援助を求め而して僭主に反對したる貴族等はフィリップの救濟を乞ひたり。フォークス人は兵七千を遣りて僭主を助けたり。是に於

てフィリップはデルファイの神殿を保護するを名とし其兵を鼓舞してフォークスの軍を破り一舉に全セッサリーを征服することを得たり。南進してフォークスを襲はんと欲したりしもアセンスの兵セルモビレーの險を扼すと聞きて果さざり紀前三。五二。

### フィリップの成功

是時アセンスには古今無比の大辯士デモッセニースありてフィリップの野心大望を看破し大に辯説を振ふて國人を警戒せしめたり。オリソスも既にフィリップの恐る可きを知てアセンスに同盟を求めたり。デモッセニースはアセンス人に之を承諾せんことを勧め同盟成立したりしも當時アセンスの富者は國家の爲に負擔の重きを厭ひ又た一般市民は兵役を忌みて外邦の雇兵を用ひ前日の氣力を失ひ十分にオリソスを助くるとを爲さざりしが爲にフィリップは遂にオリソス及び其の聯結せしめたる三十二市を略し全カルキディケー半島を征服したり紀前三。四八。

然るに神聖戦争尙ほ止まず、デルファイの聖庫既に盡んとし、而してシープス亦大に疲弊し遂にフィリップの援助を請求したり。フォークス人は一時聖庫により

て勢力を振ひたるもアセンス既に衰弱してフィリップの爲に欺かれ、スバルタ亦救援を爲す能はずして遂に孤立の地位に陥り、フィリップはフォークスに進入し、全州を征服したり紀前三。四六。。是に於てフィリップはデルファイに宗教會議を開き賞罰を行ひ、フォークスの諸市は其の一市を除くの外悉く其の城壁を破壊し人民をして村落に生活せしむることを決議し、スバルタは會議に參列するの權利を剝奪せられ、フォークス人が會議に於て有したる二個の投票權はフィリップに與へられ、而て彼は又たシープス人及びセッサリー人と共にデルファイに於ける大祭の議長たるを得べき權利を與へられたり。是の如くフィリップは希臘の盟主と認識せられ、デルファイの神及び其神殿に對して不敬を爲す者あれば何時にても希臘の事件に干渉するの權利を得たり紀元前三。四六。

又たフィリップは南部希臘に於てスバルタの勢力を嫉視したる諸市と結托したり。特にエバミノングスによりて建設せられたる諸市はスバルタを恐れて外邦の保護を得んことを欲し皆なフィリップの爲に利用せられたり。アセンスのデモッセニースは南部の列國を周遊してフィリップの謀略に陥らざらんことを警戒し、アセ



ンスの爲のみならず、全希臘の自由の爲に努力したり。紀元前三百三十九年第四神聖戰爭の端を發したり。是れロークリス州アムフィッサの市民がデルファイの聖地を私用したる事件に關して起り、フィリップ同盟の總大將として之を征討するに當り、却てフォーキス州の東部にあるエラテヤを略取し其の目的アムフィッサに非ずしてピオシヤ及びアッチカを制壓せんとするに在ることを示したり。アセンス人大に恐れ五百人會議及人民會議を開きデモッセニースの建築により直にシープスに使節を遣して同盟を約し、兩國の兵相合してピオシヤ州の西部ケーロネーヤに於てフィリップの軍と接戦したり。マセドニヤの兵三万二千、兩軍凡そ同數なりしもフィリップの精兵に當る可くもあらず、フィリップの子アレクサンデル年僅かに十八歳マセドニヤ軍の一翼を率ゐてシープスの神聖隊を破り、敵の全軍をして大敗せしめたり紀元前三三〇年八月。是れアレクサンデル大王の初陣なりしかばフィリップは彼を懷て祝して曰く「我子よ汝は自から他に王國を求めよ、我が汝に讓るべき王國は汝の爲に餘り小なればなり」と。此の一戰によりてシープスは忽ちピオシヤ聯合諸市の盟主たる勢力を失し、單に一個の市府として存するのみと

なれり。尋てフィリップは南部希臘に進入しスバルタの領土を削りて之をメッセニヤ人、アルゴス人、及びアルケデヤ人に與へ、斯くてシープスの爲さんと欲して爲す能はざりし目的を達し、スバルタをして僅かに南方の一市として孤立し他に其の勢力を及ぼすこと能はざらしめたり。是に於て全希臘の自由は全く亡滅に屬し、其の生命は文學哲學及び美術の上に存するのみとなれり。

### マセドニヤの兵制

マセドン王フィリップが是の如く希臘列國を制服してセミストクリリス、ペリクリリス及エバミノンダス等の爲すこと能はざりし統一の目的を達したるは希臘が市府を國家として列國相争ひたるに反してマセドニヤは市府を以て國家となさず國王を中心とし其の基礎を全國に置きたると、希臘列國が民兵若くは一時雇兵の制なりしに反してマセドニヤは國民を以て組織したる常備軍を有したるとによれり。マセドニヤと希臘の勝敗は市民と國民との強弱又た民兵と常備軍との優劣に外ならざりしなり。特にフィリップはエバミノンダスの兵制によりて世に名高きマセドニヤの方形密接隊ファランクスを編成したり。縦横十六人の兵を列ねて一隊となし、各兵の間三呎の距離ありて皆な二十一呎の長

槍を携へ前に十五呎後に六呎を突出せしめて敵軍と相戦ふたり。故に前列五人の兵は第一列の前面より其の槍身を突出せしむると各々十五呎、十二呎、九呎、六呎、三呎にして通常希臘軍の槍は六呎に過ぎざりしが故にケーロネーヤの役希臘軍の槍身はマセドニヤ軍の前面三列の兵士の槍を挫かざれば第一列兵卒の身體に達せざるの不便を感じたり。此の密接隊及び常備軍の兵制はフィリップ即位の初年イリ、ヤ人を防かんが爲に設けたるものにして賞罰嚴明更に貴賤の別を顧みざりき。密接隊の短所は自由に廻轉する能はざると之を用ゆるに平野を要するとの二點に存したり。故に此點に於て密接隊は羅馬の兵制に劣れり。羅馬人は先づ投槍を以て敵陣を亂し次に刀劍を以て接戦するの制を用ひ、各兵をして自由に戦ひ又た如何なる地理にも適應せしむると爲したり。然れどもマセドニヤの兵は羅馬人と接戦するまで嘗て敗北したるとなく、且羅馬人に破られし時も、山地に於て側面より攻撃せられたるの結果なりき。アレクサンデル大王の其兵制を以て波斯帝國を征服したりしも彼は之のみに依頼して戰爭を爲さず先づ他の兵を以て戦を始め、密接隊をして最後の勝敗を決せしむるととなしたり。彼は

此外に希臘人を以て組織したる歩兵及び騎兵又たマセドニヤの周圍より弓、短劍及び其他の輕器を持したる野蠻人を募集して軍隊を組織し、特に攻城野戦の爲に投石器を使用すべき特別の軍隊を設備したり。此の器械は當時に於て大砲の代用を爲したり。元來希臘人は之を攻城の際城壁を破壊する爲にのみ使用したりしが歴山大王始めて之を野戦に適用したりしより後世之によりて戰爭の勝敗をも決するに至れり。

### 波斯征伐の計畫

紀元前三百三十八年の末フィリップは希臘列國をコリンスに召集し自己の政策を宣告したり。内部に於ては列國の平和及び獨立を保證して諸小國の心を安ぜしめ、且つ列國交通貿易の自由を安全にし而して、外に向つては波斯戰爭以來希臘列國共同の讐敵たる波斯を征討するの光榮を表示したり。是に於てフィリップは波斯征討の總大將に擧られ、列國は征討の爲に兵員若くは船舶を出すの約を爲したり。然るにスバルタは頑としてコリンスの大會にも使節を遣らざりしが故に、フィリップは之を懲さんと欲し、南部半島を進行して悉く之を平定したり。而してマセドニヤの兵營は中部希臘のシープス、ユービー

ヤ島のカルキス地峽のコリンス及び西部のアムブレキヤに在りて全國を鎮壓したり。斯くてフィリップは本國に歸り波斯戰爭の準備に着手したり。是より先き彼は數人の妻を娶りアレクサンデルの外にも子ありて正妻オリムピアス及アレクサンデルとの間に不和を生じ、彼等はマセドニヤを去りてオリムピアスの郷里エパイロス王の許に投じたり。是等の紛議によりて遠征の舉遅延し紀元前三百三十六年の春に至りて先鋒を亞細亞に進入せしめたり。然れどもマセドニヤを去るの前にエパイロス王に嫁せしむるに其女を以てし、而して正妻オリムピアス及びアレクサンデルとの葛藤を解き以て不在中後顧の患なからんとを欲したり。此の婚禮に際しフィリップは端なく刺客の爲に殺されたり。而して嫌疑は正妻オリムピアス及びアレクサンデルの上に懸りて後世史家の評一ならず、アレクサンデルが關係したる證據はなしと雖ども其母オリムピアスは刺客を教唆したる形跡あり、而してアレクサンデルは直ちに王位に上り、父の大業を繼承して彼よりも偉大なる功業を成就したり。

アレクサンデル大王

紀元前三三六

原名アレクサンドロスは紀元

前三百五十六年に生れたり。彼れの生るゝやフィリップは當時の大哲アリストテレスに書を送りて彼れが大哲の存在中に生れたるを賀し將來の教育を託したり。年十二歳にして彼は三年の間特にアリストテレスの教育を受けたり。彼れは哲理を明かにし且つホーマーの詩を愛誦し、軍中にも必ず之を携帶したり。十六にして一時攝政し、十八にしてケイロネーヤの戦勝を爲し、二十にして遂に王位に即きたり。希臘人はフィリップの刺殺せられたるを聞て大に喜び各獨立せんと欲したり。特にアセンスは其の中心にしてデモスセニースは其の主動者なりき。彼は波斯と通じ又た南部諸州に使者を遣したり。メガロポリス及びメッセニヤを除くの外半島諸國はスバルタを始として之に應ぜんと欲し、シープスの牙城カドミヤはマセドニヤ兵の占領したるに拘はらず、シープス人も亦た同様の傾向を表はしたり。アレクサンデルは父の死後マセドニヤの民心を服従せしめ、二ヶ月を出でずして大軍を率ゐ、セッサリイに進入し、セルモビレーに到りて宗教會議の爲に希臘の首領たることを認識せられ、シープスに入りて市民の機先を制しコリンスの地峽を経て南部希臘を巡回したり。アセンス人恐れて罪を

謝し、服従して彼を神の如く畏敬したり。是に於てアレクサンデルは希臘列國の使節をコリンスに召集し、父と同じく希臘の總大將として波斯征討の大權を委任せんとを要請したり。最早や抵抗する能はざる希臘人は素より其要求に従ひ、海陸兩道の大將軍たる權利を委任したり。然れどもスバルタは傲然として此の會議に列せざりき。アレクサンデルは之を顧みずしてマセドニヤに歸り、紀元前三百三十五年の春を以て波斯を征討するの心算なりしが、偶々北方の民族背叛したり。王は直に北に向ひ今のバルカン山を超てダニュープ河を涉り、蠻民を征討したり。此行大王戰死の誤報希臘に達し、シープス人は未だ其の誤報なるを知らざりし前にアレクサンデルは既に兵に將としてピオシヤに入り、シープスを圍み、其の降らんことを欲したり。シープス人は今更如何ともすること能はざりしが、故に彼は遂に之を陥れ、其の六千人を殺し、其の三千人を囚にしたり。王は同盟にシープスの處分を諮問し、波斯戰爭中波斯に應じたるの罪及び其の他の罪を數へて市民を奴隸となし、詩人ピンダル紀前五二二頃の家及び其子孫を免じ、其餘は悉く市

民の家屋を破毀し、其の土地を分配したり。希臘列國震懼して又抵抗するものなく、アセンス人恐れて服従し、幸に免さるゝことを得たり。アセンス人は海軍を有し、波斯征討に有用なると大王がアセンス人に對し多少の同情を有したるとは遂に此の結果を生ぜしめたり。

アレクサンデルは古今の名將大王にして善く兵を用ひ、又た能く人を服せしむるの度量を有したり。羅馬人はハンニバルを除くの外、彼を以て第一の名將なりと斷定したり。武勇果斷兵を用ゆる神速にして精神の高邁なること古今に比類なき人傑なりしも、彼の所行は往々野蠻的にして、其の外形の希臘的なるにかゝはらず、内部に於ては猶ほ蠻人たるの性質を脱せざりき。彼は王子として生れたれば、其の品性の脩養に於てベリクリース及びエバミノンダスに比すべからざりしは固より自然の結果なりしならん。然れども年二十にして位に即き、能く四方を平定し、三十にして亞細亞、亞弗利加、歐羅巴に跨がる大帝國を建設したり。父の遺業によるといふと雖、ども不世出の才に非ずして焉んぞ能く是の如きに至らんや。

### 歴山大王の遠征

紀元前三三四—三三三

紀元前三百三十四年の春アレクサンデル

はアンチパテル原名アンチを以てマセドニアの攝政となし歩兵三万騎兵五千に將としてヘレスポンドの海峡を渡り小亞細亞に進入したり。發するに臨み悉く王室の領地を其親信者に分與したり。將軍ヘルディッカス問ふて曰く、王自ら何を有たんと欲するかと。大王答へて曰く、朕は我が希望を存するのみと。是時に當り波斯防禦軍隊の最も精銳なるは希臘人等の雇兵にして其の將メムノンは能く人事に通曉したり。彼れは波斯の總督に向つて策を献じ、宜しく野戦を避け險の地及び市邑に據りて防ぎ、而して歴山王の艦隊よりも優勢なるフィニシヤの海軍を遣はして希臘人を煽動し以てマセドニアを襲はしむ可しと勸告したり。總督聽かずグラナイカス(グラニコス)河に據りて防戦したり。波斯の騎兵凡そ二万、希臘人の雇兵二万、而してメムノンは全軍を指揮したり。河水深くして殆んど渡る可からず而して前岸は甚だ危険なり。歴山王は先づ騎兵をして河を涉らしめ自から方形密接隊の先きに立ちて之れに従ひたり。大王は眞先きに進んで敵軍を突き危くして僅かに免がるゝを得たること數度に及べり。王自から波斯の二將を斬りて遂に之れを敗走せしめ、次に轉じて希臘の雇兵を破り其の二千を囚

にしたり。是より南進してミシヤ及びリデヤを循へ小亞細亞に於ける希臘諸市及び諸島に波斯の羈絆より脱すべき自由を宣言し、東北に向つて進行し更に南向してキリキヤに入り遂にシリヤに進入したり。波斯の王デライオス三世(コドマノス)大軍を率ゐ來りてマセドニアの軍後に出でたり。是に於て歴山王は軍を旋らして再びキリキヤに歸りイッソスに於て決戦したり。紀元前波斯の兵勇戦したりしも固よりマセドニアの精兵に敵するに足らず、且つデライオス怯懦にして全軍敗績し十万人戦死したりと云ふ。デライオスは其母と妻とを伴ひしが敗軍するに及び之を棄て、遠く遁走したり。歴山王は彼れを追撃せず、南に轉じてフィニシヤに入り、ダマスコスを略し、殆んど全フィニシヤの地を一撃なしに降服せしめたり。是れ先づフィニシヤ及び埃及を征服し、マセドニアをして安全ならしめ、後顧の患を絶たんとの策に出でたり。フィニシヤの諸市中一三二タイル獨り降らず、歴山王の軍をして數月南進すること能はざらしめたり。頁參照是れタイル市は大陸を去ること半哩の海中に在りて繞らすに強壁を以てし、而してタイル人は戦艦を有し、歴山王は海軍を有せざりしが故なり。歴山王は陸と市との間を埋め

て幅二百尺の道路を築かしたるしが市に達せんとしてタイル人の爲に其の工事を破壊せらるゝこと數度に及び遂に降服したるフィニシヤの他の諸市より戦艦を徴發し以て工事の完成を保護せしめたり。道路既に成り大王は攻城の機械を以てタイルの城壁を破り激戦の後遂に之れを陥れ市民八千は虐殺せられ其餘はタイルの王並に其の貴族數人を除くの外奴隸に賣られたるもの三万人の多きに達したり紀元前  
三三二。

歴山王がタイルを陥れたる時の工作は猶ほ依然として存し今に寂寞なる海中の一島と本陸とを連結せしむと云ふ。

タイル攻圍の際波斯王デライオスは家族を回收せん爲に一万タレントの價金を出し且つユーフレチース以西の諸州を譲り而して其女を以てアレクサンデルの妻となし以て和約の條件と爲さんことを請求したり。アレクサンデルは之を聽さずして南進し埃及に向ひしが途中ガザ城防戦して彼の軍を支ふること三四ヶ月に及びたり。埃及は殆んど抵抗なくして服従したり。是れ波斯人が埃及の宗教を侮蔑し動物崇拜を嫌惡したるが爲に其の民心を失したるによれり。之に反

してアレクサンデルは埃及の神に犠牲を供して以て彼れが他邦人の宗教を尊敬することを表し以て波斯に屬したる諸民族をして大王を歓迎するの心を生ぜしめたり。彼はナイルの河口に於て一大市府を建設したり。アセンスのセミストクリースが經營したるバイレューイスに繼ぎ明白に商業上の目的を以て建設せられたる市府はアレクサンデリヤを以て始とす。後年羅馬を除くの外世界に於て最も重要な都會となり東西文明の集中點とはなれり。

大王は埃及の西にある沙漠中の神殿に參詣して神託を受け紀元前三百三十一年の春フィニシヤに歸り八月の末ユーフレチースのサブサコスに達して河を涉り東北に向つて進行したり。波斯王デライオスは前役の敗を以て地の不利に歸したり。故に今回は平原に於て大軍を引率し以て一大決戦を爲さんと欲し、ニネベの古城を去ること遠からざるガウゲメーラ附近に於てアレクサンデルの來るを待ちたり。マセドニヤの方形密接隊は遂に波斯の大軍を敗走せしめアレクサンデルは全勝を得たり。此一戦によりて波斯帝國は瓦解したれば大王は波斯帝國の君主として地方の總督を任命したり。而して再びタイグリス河を渡りて巴比

倫府に入り其の諸神に犠牲を供し、波斯人が破壊したる神殿の再建を命じ以て僧侶及び人民の心を悦服せしめたり。是に於て一月の間兵馬を休はしめ、三度タイギリス河を渡り、波斯の首府スーサに進入して莫大の金銀五千七百万の價格を占有し又たザークシースが百五十年前希臘より掠取し去りたる美術品を回復し之をアセンスに返附せしめたり。而して舊都のペルセポリスに到りては更に二倍の財貨を得たりといふ。ペルセポリスの人民は抵抗を爲さざりしもアレクサンデルは百五十年前波斯人が希臘を害したる復讐として王宮に火を放ち、兵卒をして多く其の人民を殘殺し又た之れを奴隸と爲さしめたりといふ紀元前三三〇。然れども一説には此の談を事實と爲さず、ペルセポリスの滅亡を以て後世回教徒の所爲に歸する者あり。デライオスは敗軍の後ミデヤのエクパタナに遁れアレクサンデルの追求によりて更に東走し、バルシヤに於て遂に總督ベッソスの爲めに弑せられたり紀元前三三〇。アレクサンデル到りて其衣を脱し彼の死體に被せ、厚く之を葬り且つ其の諸子を養育したり。

大王は裏海カスピアンの南にある土地を征服し、今の所謂ペルシヤ及びアフガニスタンを經

過して東又た南に進軍し、途上アフガニスタンの西邊軍事上要害の地にアレクサンドリヤ、アライオンといふ殖民地を建設したり。今のヘラット即ち是なり。進行中アレクサンデルの諸將中彼れの忌憚したるフィロタスは謀叛の嫌疑にて誅せられ其父バルメニヤも亦たエクパタナに於て死に處せられたり。更に東進して一市を建て又たアレクサンドリアと名けたり。今のカンダハールなる可しといふ。是より北に轉じて今のヒンド、クーシ山を超え、今のカブルに近き處に又た一殖民地を建設しバクツリヤに進入したり。波斯王を弑したるベッソスはオクソス河を涉りてソグデアナ(ボカラ)に逃れたりしが遂に部下の爲に捕へられてアレクサンデルの軍に渡されたり。大王は彼を磔刑に處し以て波斯王の爲に報復し尙ほ北進してボカラの首府マラカンド(今のサマルカンド)を陥れたり紀元前三二九年。ジャクサルチス河を涉りて蠻人と戦ひ之を破りしかども深く其地に入ることを爲さず、此河を以て帝國の北境と爲さんと欲し、爰にアレクサンドリヤ、エスカテール最も遼遠なるを建設したり。紀元前三百二十八年ソグデアナの征服稍々困難を與へたり。爰に於てバクトリア貴族の美女ロクサナを娶りて妻となせり。ア

レクサンデルは又たマラカンダに於てグラナイコスの役我が生命の恩人たりし良將クリトスと酒興に乗じて相争ひ遂に之を殺したり。醒めて後悔に堪へず三日の間飲食を絶したり。畢竟大王既に天下に敵なく動もすれば東方専制君主の神權を模倣せんとするの態ありてマセドニヤの猛將等之を屑しとせず、フィロタスの如き又たクリトスの如き或は大王の忌憚に觸れ或は其の一時の忿怒によりて殺されたり。

紀元前三百二十七年大王は印度を征服せんと欲してバクトリヤを出發し、途中大にヒンドクシ山中の土人と戦ふてインドス河の上流に達し、之を涉りて東進し、パンジャブの地を侵略したり。ハイダスビース河の向岸に國王ポロス精兵を率ゐ來りて防戦したり。彼れ苦戦して遂に囚とせられたり。大王その勇に感じ彼れが如何に遇せられんことを欲するかを問ひしに、彼れ泰然として唯だ王として遇せよと答へたり。大王更に他に願ふ所なきかを問ひければ彼れは他に願ふ所なし、萬事王といふ一言に在るのみと答へたり。大王之を許して其の領土を復し更に之を増加して以て己の藩屏たらしめたり。紀元前三二六 ハイダスビース河岸に二邑

を建設し一はニケイヤと名け一は大王の名馬プセファロスを弔はんが爲めプセファラと名けたり。アレクサンデルは更に強國の東方にあるを聞き進んで、又ンデス地方の印度をも征服せんことを欲したりしに、ハイフエシス河に來りしとき兵士は最早や征戰の遼遠なるを厭ひ、大王の強請を以てするも爲に進行すること肯んぜざりしが故に、止むことを得ず犠牲の徵候不吉なるに託して軍を還へすことに一決したり。一七八頁參照。

現今ラホールにある博物館には大王の建設したる市區の墟址より發掘したる希臘的美術品の遺物多く存せりといふ。

是に於て大王は再びハイダスビース河に還りしが進取的氣象に富みたる彼は同一の途を行くことを欲せず歸途に於て地理上の一大探檢を爲さんことを欲したり。蓋し彼は其の西方に於て征服したる領土と其の東方に於て侵略したる領土とを連結し以て古今未曾有の一大帝國を組織せんことを目的と爲したり。之を爲すには海上より印度と巴比倫との航路を開通することを以て第一の要件と爲したり。然るに希臘人はインドス河の注ぐ所如何なる海なるやを知らず、單にイ



ンドス河とユーフレチース河との間に水路ありといふ漠然たる思想のみに止まり、大王の如きもインドス河を以て最初はナイル河の支流ならんと思へりと云ふ。アレクサンデルは軍を三隊に分ち、其の二軍は各々ハイダスピース河の兩岸を下り自ら八千の兵と共に二千艘の船に乗りて出發したり。途中に一種族ありて大王の軍に抗し、其の城を攻むるに當りアレクサンデルは先登して敵將二人を斬り、矢に中りて重傷を負ひ一時生命危かりしが快愈して再び船に乗りインドス河に達したり。此に又たアレクサンドリヤを建設し、印度の商業上之を以て埃及のアレクサンドリヤに相對せしめんと欲し遂にインドス河を下りて印度洋に達したり紀元前三二五。

此の河流に沿ふて二千年の後英國の技師は鐵道を布設したり(紀元後一八七五)。

アレクサンデルはインドスの河口より其將ネアルコスに艦隊を率ゐる海に航してユーフレチースとの通路を探索せしめ、自から徒歩して一兵卒と艱苦を共にし、燒るが如き沙漠の地(今のペルチスタン)を經過したり。此地に於ては空氣も沙塵を以て成るかと怪まるゝ程にて輕風起る毎に飛塵面を撃ち口に入り鼻に滿ち、而し

て足は沙中に没し踏むに由なく兵士は疲勞及び疾病の爲に死するもの多く、六十日を経てカルメニヤに着したり。此地に於て大王はネアルコスが航海に成功して陸軍と相會したるを喜び更に彼をしてタイグリス及びユーフレチースの河口を探らしめんが爲め波斯灣頭に向はしめ、又た本軍は波斯灣に沿ふて進行せしめ、自からは別軍を率ゐて捷路を取り遂にペルセポリスに達したり紀元前三二四。大王は遠征中不忠にして波斯本部の人民を壓制したる總督等を罰し、大に行政の秩序を正しくしたる後、スーサに着して兵を息はしめ、數月間滞在して總督等の行狀を檢し其の不正なる者に嚴罰を加へたり。

### 大帝國の經營

是に於て彼は東西の人民を混化せしめんと欲し、自らデライオスの女ステタイラと婚を結び、八十人の將校をして波斯の貴婦人を娶らしめ、又た賞與を約してマセドニヤの兵士一萬人に波斯の婦女を娶らしめたり。又た大王は數多の波斯人を従來マセドニヤの兵のみを以て組織したる軍隊中に編入し且つ亞細亞土人中の勇敢なるもの三萬人を募りてマセドニヤ流の訓練を授けたり。蓋し彼はマセドニヤ人及び波斯人を中堅とし東西の人民を同一視して以

て宇内統一の大帝國を成立永續せしめんことを欲したり。マセドニアの兵喜ばずして動搖し大王の智勇によりて漸やく鎮定することを得たり。此後エクパタナを経て遂に巴比倫城に歸着したり。

西はアイオニヤ海より東はインドス河に跨がりたる大帝國の首府としてアレクサンデルは此大帝國の中心に位せる巴比倫府を選定したり。彼は未だ之を以て遠征の終局とは思惟せざりしなり。彼は東征を止めて是より南方及び西方の經營に着手せんことを計畫したり。ネアルコスをして印度洋を航海せしめし以來彼は海上よりアラビヤを征服せんと欲し、フイニシヤに於て一旦船を造り又之を解きて陸上よりユーフレチース河上のサプサコスまで運搬し、此地に於て再び船を組立て巴比倫より遠征軍を出發せしめんことを企てたり。紀元前三百二十四年の春大王はスーサを發して巴比倫城に入りしが萬國の使節は此に來會して彼れの戰勝を賀したり。其の使節等は希臘伊太利、シ、リ、サルデニヤ、リビヤ(亞弗利加)等の各地より來りたる者なりき。アレクサンデルはアラビヤの海岸を測量せしめんが爲に三たび遠征隊を派遣し、裏海を探見せんが爲に艦隊の建造を命じ、又

たユーフレチースの河流を視察し、運河を改良して以て其の灌漑及び航行を便ならしめんことを計畫したり。彼は先づアラビヤを征し、次ぎに西方に向はんとし、て出發に先だち犠牲を諸神に供して成功を祈り、且つ盛筵を張りて將士の心を勵げましたり。遠征軍將さに發せんとするに臨み大王鯨飲の結果熱を發し、十一日にして遂に死す紀元前三三二、三三〇、六月二十八日。時に年僅に三十二なりき。

彼れの病篤きを聞きて兵士等は生前に一たび大王を見んことを請求して止まざりしかば宮中の警衛等は大王が臥したる病室の戸を開き將士列を爲して大王の枕邊に近づき交々通過して永別の意を表したり。大王の遺體は巴比倫より先づ埃及のメムフィスに送り後にアレクサンデルに葬りたり。其の柩は黄金を以て之を飾り、八十四匹の驢馬をして其車を引かしたれども車重くして巴比倫よりシリヤに到るに猶ほ一年餘の日子を要したりと云ふ。

### 大王遠征の結果

アレクサンデルの成功は固より其の天才の非凡なるに  
よりしこと疑ふ可からず。然れども波斯帝國の弱くして抵抗力なかりしこと、是  
れ亦た疑を容る可からざるなり。故に其の成功の大なるは寧ろ其の地理上及び

氣候上の大困難を制して能く其の目的を成就したること又た彼が希臘人及び亞細亞人の偏見を脱して世界的思想を發揮したることに在りと謂ふ可し。此點に於て彼は其師アリストートルに超越したり。何となればアリストートルは希臘人と異邦人との區別を天性に歸して異邦人は希臘人の奴隸たる可き者なりと思考したればなり。彼の遠征は同時に學術上の探險にして之が爲に東西の地理歴史を明白ならしめ、且つ亞細亞の諸州よりアリストートルに送りたる動植物の標本は則ちアリストートルが著したる博物誌の材料に供せられたり。大王遠征の結果マセドニヤの諸將東方の王となり、希臘語及び希臘の文學東方に流行し東方漸やく希臘化せらるゝに至れり。東西合一の理想は彼れが將士をして亞細亞人を娶らしめたる一事にて知ることを得べし。而して政治の上に於ては勉めて波斯の舊制に従ひ其の總督及び税法を用ひ、波斯王と異なる所は其の軍隊によりて獨裁の實力を有し全く地方總督を駕御し、各總督をして獨立君主の如くならしむることなく、又た波斯人と異にして諸邦人民の信奉したる宗教に尊敬の意を表し、而して道路、港灣、船渠等を築造し以て大帝國の商業及び交通を便ならしめんこ

とを欲したるに在り。彼は區々たる希臘人の政治思想を脱し、波斯人に倣ひ之を改善して更に宇内一統の大帝國を建設せんことを欲したり。彼は東征終りて將に西征の途に上らんと欲したり。アラビヤ遠征は終局の目的に非ずして彼は遂に伊太利、カーセーチ等を征服し、巴比倫を首府として大西洋より印度に跨がる所の大帝國を建設せんと欲したり。天若し彼に年を假したらんには羅馬の霸業或は失敗に屬したりしやも亦た未だ知る可からず。後年羅馬が天下を一統するに及び征服せられたる希臘人嘲笑して曰く「是れアレクサンデル早世の庇蔭によるのみ」と。

### 諸將の分争

大王遽かに死して正嗣未だ生れず、僅かに幼弱なる私生兒ハルキュリスを遺したり。又た庶弟にアーリーデイウスと云ふ者ありき。大王は死するの前何人を以て相續者と爲さんと欲するかを問はれし時「最強者」と答へ、而して印環は之をベルディカスに渡したりと云ふ。然かも彼は遂に最強者たること能はざりき。

大王の死後將校會議の結果により大王の弟アーリーデイウスを以て王となし、且

のフィリップと稱せしめ、而してロクサナの將さに生まんとする胎兒若し男子ならんには並び立て王となすに決したり。四人の攝政を置き、歐羅巴にはアンチパテル及クラテラスの二人、亞細亞にはベルディカス及びメリエーゲルの二人なりしがベルディカスは其の同僚を殺して其權を專にしたり。彼は亞細亞の大軍を指揮したるが故に最も多くの勢力を有したり。然れど他の諸將が直ちに彼に向つて反抗を爲さざりしは諸將各々大帝國の各地を分配せられて満足したるが爲なりとす。大王の天下は諸將の數に應じて三十三州に分轄せられたり。就中十將は其の最も重要な部分を領したり。而してベルディカスは柔弱なるフィリップ及びアレクサンデルの死後に生れたるアレクサンデル第四世の名義を以て帝國の大政を攝したり。彼は大王の妹を娶り諸將の御しがたきを見て自から主權を掌握せんと欲したり。マセドニヤ及び希臘の攝政たりしアンチパテルとクラテラスの二人は埃及を領したるトレミー(ブトレメーオス)及び小亞細亞の大部分を領したるアンチゴノスと聯合してベルディカスに宣戦したり紀元前三二一。小亞細亞の一部分を領したるユーメニースはベルディカスに黨し、其餘は中立傍觀したり。ベルディ

カスは二君を擁し、大軍を率ゐて埃及を征し、戦利あらず却て部下の兵に殺されたり。而してクラテラスは小亞細亞に於てユーメニースと戦ふて死し、攝政はアンチパテル一人となりたり。諸將シリヤに會合して更に諸州を分割し、アンチパテルを以て攝政となし、又た新にセリュコスを擧げて巴比倫の總督となしたり。久しからずしてアンチパテルは攝政の權を諸將中の年長者ポリスベルコンに譲りて死したり紀元前三一九。是に於てアンチパテルの子カッサンデル奔りてアンチゴノスに投じ、又埃及のトレミー之が黨與となり、而してユーメニースはポリスベルコンに協力して帝國の一致を保たんと欲したり。亞細亞に於てはユーメニースはアンチゴノスの爲に破られて波斯に奔り部下の兵に殺され、歐羅巴に於てはカッサンデルはポリスベルコンに勝ちてマセドニヤ及び希臘を占領したり。此の戰爭中フィリップ、アリデオスはカッサンデルに黨して大王の母オリムピアスの爲に殺され、オリムピアスは又たカッサンデルの爲に殺され、而してロクサナ及び小アレクサンデルも彼の爲に捕へられたり紀元前三一六。是後アンチゴノスは最も強盛にして將さに帝國を統一せんとするの勢ありしか

ばトレミー(埃及)セリュコーコス(巴比倫)カッサンデル(マセドニア及び希臘)リシマコス(スレース)相共に聯合同盟して第三回の分争を開始したり紀元前三一五。アンチゴノスの黨與は僅かに老年のポリスペルコンのみなりき。三年の後勝敗決せずして雙方疲弊し、遂にアンチゴノスは亞細亞を領し、カッサンデルは小アレクサンデルの成人するまで其の權を保持し、トレミー及びリシマコスは從前の領地を保有し、而して希臘諸市に自由を與ふるの條件を以て和睦を締結したり紀元前三一四。セリュコーコスは一旦アンチゴノスの爲に其領地を奪はれたりしも此の戦争の結果により巴比倫及び東方の政權を恢復し以てシリア王國の基を立るに至れり紀元前三一三。是時マセドニアに於てはカッサンデル遂に小アレクサンデル及び其母ロクサナを弑したり。然れども之が爲に諸將敢て戰端を開くものなかりき。紀元前三百十年埃及のトレミーはアンチゴノスが小亞細亞及び諸島の希臘諸市に兵を置きたりしは、希臘諸市に自由を與ふるの條件に反したる行爲なりとして遂に兵を擧げたり。敵味方は前回と同様にしてアンチゴノスの子デメトリオスは大に父を助けポリオルケテ諸方を攻圍すといふ義と稱せられたり。戦争數年に涉りて勝敗未

だ決せず、紀元前三百六年デメトリオスはサイプロス島のサラミスを圍み、トレミーは之を救はんと欲し百四十隻の船に一萬の兵を搭載して來り戦ひしが全く敗軍したりしかばアンチゴノス及びデメトリオスは遂に王號を稱するに至れり。トレミー、セリュコーコス及びリシマコスも亦た此例に倣ひて各々王號を稱したり。紀元前三百一年セリュコーコス及びリシマコスは小亞細亞のフリギヤに於て兵を合することを得たり。イブソスに於て激戦起りアンチゴノスは遂に敗死し、デメトリオスは殘兵を率ゐて遁れたり。是に於て大王の帝國は又た諸將の間に分配せられしがセリュコーコスはイブソスの戰功最も大なりしが故に分配最も多く、カバドキヤ、フリギヤの一部、シリヤの上部、メソポタミヤ及びユーフレチースの地方を得たり。是の如くアレクサンデル大王の帝國は數多の斷片となりて三大王國及び十餘小國を生じたり。

### 第一、マセドニア王國 紀元前三一六—一六八

紀元前三百十六年カッサンデルはマセドニヤを占有してより同二百九十八年其死するに至るまで能く之を治め位を其の子フィリップに傳へたり。彼れは一年ならずして死し二弟並び立ちて國を分ち

三年の間之を治むることを得たり紀元前二九七。一はアンチパテル二世と稱し一はアレクサンデルと稱したり。彼等は初めより不和にして前者はリシマコスに依頼し後者はデメトリオスに依頼し各その保護者の爲めに殺されたり紀元前二九四。是に於いてデメトリオスはマセドニヤを押領し王たると七年又た希臘の大半を征服し遂に亞細亞に於ける其父アンチゴノスの全領地を得ん事を企てたり。之が爲にリシマコス及びエバイロス王ピルラスの聯合に攻められてマセドニヤを失ひたり。紀元前二百八十七年より二百八十六年までピルラスはマセドニヤの王たりしがリシマコス之を逐ふて王となり紀元前二八六。次にシリヤ王セリネウス之と戦ふてマセドニヤを略したり。此時に當り埃及王トレミー一世の長子トレミーケラウノス故ありて逃亡し、セリネウスを殺し亂に乗じて二年間マセドニヤの王たりしが蠻族ゴール人の侵入に遭ふて殺されたり紀元前二七九。爾後二年間にして蠻族の亂入漸やく鎮靜し是に於てカッサンデルの甥アンチパテル及びデメトリオスの子アンチゴノス、ゴナタス位を争ひ遂に後者の勝利となりたり。彼は四年の間王たりしがエバイロスの王ピルラス伊太利遠征に失敗して國に歸り再び

マセドニヤの王位を要求し遂に二年の間アンチゴノスを逐て王となりしが彼は希臘を攻めアルゴスに於て戦死し紀元前二七二。此よりマセドニヤは再びアンチゴノスの領有に歸して永く其の子孫に傳へられたり。

是時希臘のスパルタ、アセンス衰へたれども紀元前二百四十三年より同二百二十二年に至るの間アケイア聯合起り又爾後エートリヤ聯合起りてマセドニヤに反抗し又二百八十年頃より伊太利の羅馬漸く希臘に壓迫し來りマセドニヤ及び希臘と衝突を起し東方の關係よりも寧ろ西方の關係はマセドニヤ及び希臘の運命を左右するに至れり。アンチゴノス、ゴナタスは再び王位を得て後三十二年の間之を保つことを得たり紀元前二五九。紀元前二百六十三年アセンスを征服し同二百四十四年コリンスを略したり。是に於てアケイア聯合彼に反抗し其將アラトスは遂にコリンスを略して其聯合に加入せしめたり。是よりアケイア聯合大に勃興しアンチゴノス年老いて遂に之を制服すること能はざりき。其子デメトリオス二世紀元前二二九もアケイア及びエートリヤの兩同盟と戦ひしかど其の勢力を壓倒すること能はざりき。是の時に當りて羅馬は始めて東方に兵を出しコル

カイラ島を征服し又北方向岸の本陸に於てアボロニヤ及びエビダムノスの二市を略したり。デメツリオス二世死して一時其の従弟アンチゴノス三世紀元前二二〇と稱す。攝政となり國を治めたり紀元前二二〇。彼は南部希臘を放任してマセドニヤ及びセッサリーを保ちたりしがアケイヤ同盟とスバルタとの確執に乗じてスバルタ王クレオメニース三世を破り全くスバルタの勢力を挫きエートリアを除くの外全希臘を制服することを得たり。彼れ死して後デメツリオス二世の子フィリップ政權を親ら握るに至れり。史家之をフィリップ三世若くは五世と稱す紀元前二一七。蓋し或はアレクサンデルの弟フィリップアリディアスをフィリップ三世と稱し又カッサンデルの子フィリップをフィリップ四世と稱すると否とによるなり。エートリア聯合は彼れの少年なるを侮りてマセドニヤの所屬たりしアケイヤ同盟を攻撃し痛くマセドニヤ王の爲に懲罰せられ四年の間殆んど進退維谷まるの窮境に陥りたり紀元前二一七。然れどもフィリップ五世の成功は此の上に出ること能はざりき。紀元前二百十五年彼れはカーセーヂの名將ハンニバルと同盟を約しアボロニヤを襲ふて羅馬との戦争を挑發したり。之を羅馬史に於て第一マセドニヤ戦争と稱す

紀元前二〇六。此の戦争は雙方に利あらずして羅馬人は専らカーセーヂの戦争に従事せんと欲し相和するに至りしが爾後フィリップは埃及、ロード島及び小亞細亞、ベルガモンの諸國と戦ひ其の勢力を東方に扶植せんことを欲したり。

彼は此の方面に於て領土を擴張することを得たれども以上の諸國は皆多少羅馬の保護に屬したりしが故に彼は益々羅馬の憎む所となれり。紀元前二百二年亞弗利加のザマに於てハンニバル遂に戦敗するやフィリップの援兵も亦た羅馬軍の爲に捕へられたり。是時に當り彼は全力を擧げて西方の大敵たる羅馬の膨脹に備へざる可からざりしに先見に乏しくして却てシリヤ王アンチオコス三世と同盟して埃及の屬領を分割せんことを約し其の結果によりて羅馬の同盟國たりしベルガモン王アッタロス及び埃及の同盟たりしロード島と開戦するに至れり。ベルガモン王アッタロス、ロード島の人民及びアセンス人交々マセドニヤ王フィリップの呑噬を恐れて羅馬人の救護を請求したり。是に於て第二マセドニヤ戦争は開始せられたり紀元前二〇〇。此の戦争に於てエートリア聯合先づ羅馬と同盟し紀元前一九九。翌年アケイヤ聯合も亦羅馬に同盟し兩聯合共にマセドニヤに反對したり。

紀元前百九十八年羅馬の統領<sup>コンスル</sup>フラミニヌス軍を指揮してエバイロス<sup>エバイロス</sup>を征服しマセドニヤ王の背後に出て遂にセッサリーのキノスケフレ<sup>キノスケフレ</sup>に於て王の軍を撃破したり<sup>紀元前一九七</sup>。フィリップ五世止むことを得ず希臘の霸權及びマセドニヤ以外の版圖を抛擲し十年間に償金千タレント<sup>百廿五萬弗</sup>を拂ふの約をなし、陸兵五千人戰艦五隻の外常に設備す可からず又た羅馬の認可によらずして國外の開戦を爲す可からずとの條件にて羅馬と和睦したり。是に於てマセドニヤは遂に獨立國の主權を失墜したり。

紀元前百七十九年フィリップ五世は在位四十一年にして死しマセドニヤ最後の王ペルセウスは位に即きたり。フィリップ五世は晩年大に恢復を圖り羅馬との決戦遂に避く可からざるを察して之が準備に努力したり。是を以てペルセウスの位に即くやマセドニヤは兵備整ひ資金足り何時にても開戦するを得べかりしもペルセウスは持重して容易に事を發せず、羅馬との和約を接續し七年の間平和を保つとを得たり。是間彼は公平の政を施して民心を收め鑛山を採掘して資金を充實しスレーヌ及び其他の人民を移住せしめてマセドニヤの人口を増加し亞細亞の諸

王國のみならず北方の蠻族ゴール人、イリヤ及び日耳曼人等を聯合して羅馬に當らしめんとを圖りたり。然れ共王は遂に希臘を同盟に加入せしむると能はざりき。希臘諸國はマセドニヤの主權よりも羅馬の主權に服従せんとを欲するもの多かりき。紀元前百七十一年の春羅馬の兵エバイロスに上陸し第三マセドニヤ戦争開始せられたり<sup>紀元前一七一—一六八</sup>。一時マセドニヤの軍勝利を得たりしも王の吝かなりし爲に同盟を失ひ紀元前百六十八年羅馬の統領エミリウス、パウルス兵を指揮するに至りて形勢一變しビッドナの一戦に於て遂にマセドニヤの密接方形隊は地勢の不利により羅馬軍の爲めに破られたり。ペルセウスの軍死するもの二万人囚となるもの一万八千人王は先づペルラに走り尋てアムフィポリスに遁れ遂にサモスレーヌに於て羅馬の軍隊に捕はれ羅馬に於てパウルスの凱旋式に引かれたり<sup>紀元前一六七</sup>。數年の後彼は自由なる捕虜としてアルバに於て死去したり。爾後マセドニヤは四個の共和國に編制せられ而して相互に交通することを禁ぜられたり。羅馬人は大に人民の税を軽くしマセドニヤ王政の時に比すれば僅かに其半額を要求したり。紀元前百四十八年アンドリスコスなるものペルセウス



の弟と稱して兵を擧げたり。之れを第四マセドニヤ戦争と稱す紀元前一四〇。彼れ戦敗れて捕虜となりマセドニヤは遂に羅馬の一州として直轄せらるゝこと紀元前一四六なれり紀元前一四六。

歴山大王死後マセドニヤ王國系統左の如し

第一アンチパテル系統

	紀元前	紀元前
一、アンチパテル	三二三—三一八	五年
ボリスバルコン	三一八—三一六	二年
二、カッサンデル	三一六—二九八	一八年
三、フィリップ	二九八—二九七	一年
四、アンチパテル二世	二九七—二九四	三年
五、アレクサンデル	同上	同上

第二アンチゴノス系統

一、アメツリオス	二九四—二八七	七年
ピルラス(エパイロス王)	二八七—二八六	一年
リシマコス	二八六—二八一	五年
セリユニコス一世(シリヤ王)	二八一—二八一	一年

トレミー、クラウノス	二八一—二七九	二年
無政府	二七九—二七七	二年
二、アンチゴノス、ゴナタス	二七七—二七三	二年
ピルラス(再度)	二七三—二七一	二年
アンチゴノス、ゴナタス(再度)	二七一—二三九	三二年
三、テメツリオス二世	二三九—二二九	一〇年
四、アンチゴノス、ドーソン(攝政)	二二九—二二〇	九年
五、フィリップ五世	二二〇—一七九	四一年
六、バルセウス	一七九—一六八	一一年

第二、埃及王國 紀元前三二三 アレクサンデル大帝國の斷片より成立したる

諸王國の中トレミー(プトレメーオス)が建設したる希臘的埃及王國は最も重要にして世界の文明に大影響を及ぼしたり。其の創立者はアレクサンデルの將トレミー、レガイにしてトレミー第一世と稱せられ 紀元前三二三、又たロード島に援軍を遣りしことありてソテール救済者と稱せられたり。王號を稱したるは紀元前三百六年以後なりと雖ども實際は紀元前三百二十三年以來埃及の王たりしと言ふことを得べし。子孫相繼で十九王二百九十三年の間存續することを得たり。ア

レクサンデルの帝國分割せらるゝやトレミーは埃及の全部、アラビヤ及びリビヤの一部を得たり。彼は又た下シリヤ、フィニシヤ、パレスチン、サイレーネー(キレネ)及びサイプロス島を征服したり。

埃及に於ても亞細亞に於けるが如く希臘語は政府の用語となり而して重要な官職は希臘人の手に存したり。當時の風俗に従ひてトレミーはエルサレムより一万の猶太人を首府アレクサンデルリヤに移住せしめれば此地は希臘人猶太人輻輳し、土着の埃及人と相接し、東西の文化相混合して古代の埃及と其趣きを異にしたる一種の文明を發生せしめたり。フィニシヤの商工及び彼のレバノン山の木材によりてトレミーは埃及を海上の強國となし、亞細亞及び歐羅巴の間に於ける商業の中心となすことを得たり。首府アレクサンドリヤは世界産物の集合所となり、其の港口に建設せられたるファロス是世界七不思議の一に數へられたり。是れトレミーが船艦の航海を安全ならしめんが爲に建設したるものにして海上燈臺の設備は是を以て始とすと云ふ。トレミーは單に埃及をして商業上の中心たらしむるのみならず、之をして世界知識上の中心たらしめ、天下の文學、科學、美術及

び宗教を此に集中せんとを希圖したり。彼は有名なる博物館(大學)及び圖書館を建設したり。

トレミーの保護によりて希臘の詩人、美術家、哲學者及び科學者等は此地に集合し、數學者ユクリッド幾何學の元祖及び天文學者トレミーはアレクサンドリヤに於て其書を著はしたり。詩歌、文學、哲學、美術に於ては希臘に及ぶ能はざりしと雖ども數學、天文、物理の諸學はアレクサンドリヤに於て大なる發達を爲したり。又た此地に於て希伯來人の文學バイブルの前編(舊約聖書)は希臘語に翻譯せられたり紀元前二七五〇。最初三代は最も昌盛を極め埃及をしてプサメチコス以上五七頁以來先例なき富強の地位を有せしむるに至れり、而して政府の所在地は河口のアレクサンドリヤなりしが故に埃及は昔日と異にして専ら海軍國又た商業國とはなれり。海外に於てはサイプロス島及キリキヤ等の地を領し又た一時は希臘のコリンス及びシキオンを領したり。第一世トレミーに繼ぎて第二世トレミー紀元前二八五—二四七位に即き武勇は父に劣りしかども文治の上には父に劣る所なかりき。彼はナイル河と紅海との運河を再興し、大に商業を發達せしめたり。第三世トレミー紀元前二一四—一七は

武勇父祖に勝れアレクサンデル大王の帝國を再び統一するの大志を懷きたり。爾後十六代の間埃及の諸王概ね懦弱にして國勢振はずトレミール五世紀元前二〇五—一八一幼弱にしてマセドン王フィリップ五世及びシリヤ王安テオコス三世の爲に版圖を削られ僅かに羅馬の干涉によりて埃及本部及びサイプロス島を保存するを得たり。同胞相婚の制によりて種々なる王室の禍害を醸もし女王クレオパトラ紀元前五—三〇に至りて亡ぶ。

### 第三 シリヤ王國

紀元前三一—二六五

二百四十七年の間此の王國も亦文明史上に於て重要な位置を有したり。第一世セリュキウス、ニカトル紀元前三一—二八〇の時其版圖は名義上に於てはアレクサンデル大王の併呑したる亞細亞の全部を包含し、西はヘレスポンドの海峽より東はインドス河にまで及びたり。然れども其の實際は小亞細亞、シリヤ及び昔時のアッシリヤとバビロニアとを包括したり。セリュキウス第一世は文學美術を保護奨励し又各地に市府を建設したり。就中彼が巴比倫府に競はしめんと欲してタイグリス河上に建設したるセリュキヤは人口六十万の大都會となり其の結果によりて巴比倫府は遂に歴史上より消滅するに

至れり。此の外彼れの名に因みてセリュキヤと名けられたる市府六、彼れが父の名に因みてアンテオクと名づけたる市府十六、彼れが母の名に因みてレオディゲヤと名づけたる市府五、又た彼れが妻の名によりてアバメヤと名けたる市府數個を建設したり。最初セリュキウスは巴比倫を以て首府となしたりしが後にタイグリス河上のセリュキヤを以て首府となし尋で北部シリヤのオロンテイス河上に於けるアンテオクを王國の首府となしたり。人口及び商業の輻輳地として歴史上に其名を知られ自餘の諸市府は悉く消滅したるも此のアンテオクは今に存在せり。

是の如くセリュキウスは西方の諸強國と競争するの必要により首府を王國の一端に置きたりしが故に其の東北の領地は漸次獨立するの結果を生じたり。第六代アンテオコス三世紀元前一八七—一四七は大王と稱せられ一時勢力を振ひしがカーセーヂの名將ハンニバルと同盟して羅馬の爲に小亞細亞の大部分を削られたり。第八代アンテオコス四世紀元前一七六—一六四は猶太人に希臘の宗教を強むたるか爲に猶太人は王に反抗して獨立したり。斯くてセリュキウスが創立したる王國の

版圖は遂にシリヤのみとなり、廿一代アンテオコス第十一世紀元前六九に至りて羅馬の爲に亡ぶ。

### 自餘の諸小國

左の諸小國はシリヤ王國より分離獨立したるものなり。

一、ガレシヤ聯合　紀元前二百七十八年西歐羅巴のゴール人はアレクサンデル大王死後の亂に乗じてヘレスポンドを渡り小亞細亞に移住したり。其の聯合はビシニヤ、フリギヤ、ケオニヤ及びカバトキヤ以上皆小亞細亞の地に跨がれり。アウガスタスの時遂に羅馬の一州となる。

二、バクトリヤ王國　紀元前二五五頃　元來バクトリヤは波斯帝國の東北部なりしがシリヤ王に屬し、アンテオコス二世の時總督ディオドトス叛きて獨立し、王國を建設したり紀元前二五五頃。王は代々希臘人の名稱及び文明を採用し六代にして遂にバルシヤ王國に合併せられたり。

三、バルシヤ王國　紀元前二五〇頃　シツヤ王の代官擅政を施したる爲に元來チャレニヤン人種なる民族蜂起しアルサケース武勇によりて王となり、ユーフレチーヌ河とインドス河との間にある土地を略し東西文明の交通を遮斷し、羅馬の

富強を以てして遂に之を征服すること能はざりき。

### 四、猶太人ユダヤ

紀元前一六八

紀元前百七十年頃よりシリヤ王アンテオコス第四世

と稱すの虐政によりて人民蜂起し、マッタチアス及び其の五子之に將となり、父の死後ジュダス、マッカベウス之に繼ぎ其の戰死したる後弟ジョナサン又た之に繼ぎ、其の囚となりて死するや弟サイモン又た之に繼ぎ彼れ亦た刺客の爲に殺され、其子ジョン、ヒルカノス紀元前一三五之に繼ぎ、羅馬と同盟して版圖を擴め、其の子アリストブロス一世に至りて王號を稱したり。是の如く父祖の功によりてマカビー族ユダヤの王となりしかども爾後國內宗派の爭端よりして羅馬人の干涉を招き羅馬の名將ポムペイウスの爲に羅馬の屬國となされ、遂に外邦イドミヤ人ヘロッドは羅馬の保護によりて猶太國の王となれり紀元前三七。

### 五、アルメニヤの二王國

紀元前百九十年シリヤ王アンテオコスが小亞細亞の

マダネジャに於て羅馬人の爲に破られし後其の任命したるアルメニヤの二總督は各々獨立して大小二王國を建設し、ユーフレチーヌ河の東には大アルメニヤ王國起り王統六世紀元前一九〇にして或は羅馬の屬邦となり或はバルシヤ

の屬邦となりて其獨立を失ひ、ユーフレチース河の西には小アルメニヤ王國  
り後年ポントス王ミスリデティス(ミトラダテス)に併せられ遂に紀元前六十五年  
羅馬の邦屬となれり。

左の諸國はシリヤ王國に屬したることなし。

六、ポントス王國 紀元前三六三—四七 小亞細亞の東北部にして本とカバドキヤの一

部分なりしが海に濱するが故に希臘人は之をポントスと稱したり。波斯帝國

の晩年カバドキヤの總督自立して王となり 紀元前三六三 第二代ミスリデティス一世

はアレクサンデル大王に服従し紀元前三百十八年復た獨立したり。第八代の

王ミスリアティス五世は羅馬人の大敵なりしが其子ファルナケース二世に至りて

遂に大シーザルの爲に滅ぼされたり 紀元前四七。

七、ピシニヤ王國 紀元前三三三—七四 小亞細亞の西北にして黒海に濱したる部分なり。

波斯帝國の晩年半獨立國なりしがアレクサンデル大王遠征の時其王パスは抵

抗して降らず其の獨立を支持したり。王統八代にして晩年は羅馬の保護に依

頼し其の最後の王ニコメデース三世は子なかりしが故に遂に其の王國を羅馬

人に讓與したり。其の首府をニコメデイアと言へり。

八、ベルガモン王國 紀元前二八三—一三〇 一名ベルガムス 羅匈といふ。小亞細亞の西部

ミシヤに在り。アレクサンデル大王の部將スレオスの王リシマコスの領地なり

りしがフレティオス 紀元前二八三—二六二 をして之が城主たらしめたり。彼遂に自立し

て領地を其甥ユーメニース一世 紀元前二六三—二四一 に譲り從弟アッタロス第一世 紀元前二

四一—九七 之を繼ぎ始めて王號を稱したり。羅馬がマセドニヤ王フィリップ五世と

戰を開くや彼は羅馬に同盟して得る所多く其子ユーメニース第二世 紀元前九七—

一五 も亦た羅馬に味方してシリヤ王國及びマセドニヤ王國に對抗し大に版圖

を擴張して一時小亞細亞の強國となれり。父の政策を襲ぎて文學、美術を獎勵

し、大に其の首府を壯麗ならしめたり。彼が建設したるベルガムス圖書館はア

レクサンドリヤの圖書館に次で最も廣大なりき。第六代の王アッタロス三世 紀元前

一三三—八一 狂暴にして殘虐を極め、後には國務を廢して繪畫彫刻園藝に従事し

遂に遺言して國土を羅馬に讓與したり。ユーメニース二世の庶子アリストニ

コス直に位に即き三年の間羅馬に抵抗したりしも遂に囚となりてベルガムス

は羅馬に併せられたり紀元前。

九、パフラゴニヤ王國紀元前九〇〇

創立の年代明白ならず。波斯帝國瓦解の時  
ポントス王國に屬し紀元前二百年頃獨立し遂に又たポントス王國に併せられ  
たり。

十、カバドキヤ王國紀元前三一五

波斯帝國瓦解の時獨立王國となり後にマセ  
ドニヤの攝政ペルディカスに屬し又たアレクサンデルの將ユーメニースに屬  
し紀元前三百十五年獨立し、晩年羅馬に屬し王統十三代にして遂に羅馬の一州  
となれり。

### 希臘の末路

アレクサンデル大王波斯征服の爲に出發の後三年スバルタは  
獨立を圖りて兵を學げ南部半島之に應じたり。然れどもアセンス之に應ぜずし  
てスバルタ王アギスは攝政アンチパテルの爲に敗死したり紀元前。歴山大王の  
死後その報アセンスに達するやアセンスは戰艦二百四十隻を備へ四十歳以下の  
市民を兵に徴し又た雇兵を募り以て希臘の自由を恢復せんことを企圖したり。  
スバルタ、アルケデヤ及びアケイアは之に應ぜざりしが其他の南部半島諸市之に

應じ又た南部半島以北にてはピオシヤを除くの外多く之に應じたり。同盟軍は

アンチパテルを破り之をラミヤ希臘北部に圍みたり。之より先き國外に脱走したる

デモスセニースは南部半島の諸方に於てアセンスの爲に同盟を得んことを勉め、  
アセンス人は船を遣りて之を本國に歸らしめ非常の名譽を與へて歡迎したり。

然れども爾後同盟軍敗北し紀元前同盟瓦解し、アセンス人一万二千全人口五分の三は

スレイス、イリヤ、伊太利及び亞弗利加に移されたり。デモスセニースは脱奔し

てアルゴリス州の東岸にあるカラウリヤ島に到り遂に毒を飲みて自盡し全希臘

は又たマセドニヤの壓制に服従したり。爾後アセンスは政治上の勢力を失し、單  
に其の市中に於て自治權を有し、且つ文化の中心として存続したり。

紀元前二百七十八年アンチゴノス、ゴネタスはマセドニヤを占領して其王となり、

遂にスバルタの外、全希臘を征服したり。此時マセドニヤの壓制に向つて自由を

主張したる新勢力はアケイア及びエトリヤより現出したり。アケイアは南部

半島の北岸にありて州内の諸市府は聯合して平和を保ち是より先き希臘の歴史  
に何の寄與する所もなかりしが今や其の聯合制はアセンス及びスバルタに代り

て一大勢力を現はしたり。アンチゴノスは一時之を解散して各市の上に僭主を立てたり。是よりアケイアの諸市は是等の僭主を驅逐せんと欲し、遂にマセドニヤ反抗の大勢力となり、紀元前二百五十一年頃其の聯合は州外に及びてシキオン之に加盟し、其の代表者アラトスは撰まれて議長となり、コリンスを救ひしより南部半島はスバルタ及び其他少數の諸市を除き皆な盡く此の聯合に入り、而してアセンス、メガラ、エーギーナ島も亦た之に加盟したり。エートリア聯合は紀元前二百八十年頃より其勢力を現はし、其の聯合はアケイアの制と異にして諸市の聯合といふよりも寧ろ諸種族の聯合なりき。從來此の地方は文化に後れて未だ市府的生活を爲さずして半野蠻人の如くなりしがアセンス及びシープス衰へて中部希臘に強國なく、アレクサンデル死後の亂に乗じて漸やく其の勢力を加へ是時中部希臘を包括し、ロクリス、フォーキス、ピオシヤ、アカルネニヤの一部、北部希臘の二州を連ね、デルファイの神殿及び其宗教會議も亦た此の聯合の掌裡に屬したり。スバルタは此の兩同盟の外にありて、猶ほ依然その獨立を維持したり。然れども其の市民は僅かに七百人となり其の土地は僅かに百人の家族に所有せられ、既に

舊時の精神なかりき。紀元前二百四十四年頃スバルタ王アギス四世位に即きライカーガスの憲法を復活し負債を解除し土地を分配し以て自由市民の員數を増加せんことを企てしかども富族の反對によりて死に處せられ次王クレオメニス三世遂に之を斷行し一時スバルタの勢力を恢復することを得たり。以上の二大聯合とスバルタと平和にして外敵に當りしならば希臘は能く其の自由を保つ有することを得べかりしなれとも分離不一致は希臘人種の治しがたき病症にして二聯合相和せずエートリア聯合及びスバルタは相提携してアケイア聯合と衝突しアケイア聯合の將アラトスはスバルタの王クレオメニスに破られ遂に止むを得ずマセドニヤの援を求めて聯合の獨立を毀損したり。是に於てマセドニヤの兵はスバルタ王を破りて其の寡頭制を恢復し、且つアケイア聯合に加入せしめたり紀元前二一〇。次にアケイア聯合はエートリア聯合と衝突してスバルタは又たアケイア聯合に反抗し、南部半島は大に蹂躪せられたり紀元前二一七。是時アケイア聯合はマセドニヤ王フィリップ五世の聲援を求めたり紀元前二〇〇。フィリップ五世は西の方羅馬人に備へんが爲に紀元前二百十七年エートリア聯合と和を結び

又た翌年カッセーの將ハンニバルと同盟したり。羅馬人はハンニバルの爲に苦められつゝありしに拘はらず漸やく其の注意を希臘に轉してマセドニヤを牽制し紀元前二百十一年遂にエートリヤ聯合と同盟を締結したり。紀元前二百七年スバルタは羅馬と同盟してアケイヤ聯合の爲に討たれしが羅馬が第二マセドニヤ戰爭紀元前二〇〇を爲すやアケイヤ聯合も亦た羅馬に同盟したり。是よりマセドニヤは希臘に於て覇權を失し、羅馬人は全希臘に自由を與ふることを宣言し巧に希臘人を籠絡したり。然れども羅馬は實際兵を撤去せず諸城を占領したりしかばエートリヤ聯合之に服せずスバルタ、マセドニヤ及び東方のシリヤと聯合して羅馬に反抗せんと欲し、シリヤ王のみ之に應じたり。紀元前百八十九年エートリヤ聯合は羅馬人の爲に征服せられ、アケイヤ聯合は一時羅馬の保護によりて盛大を爲し紀元前百九十二年にはスバルタも此の聯合に加はり南部全半島を包括したり。然れどもスバルタは永く其下に立つを欲せず、紀元前百八十八年聯合の將フィロピメンの爲に大打撃を被りライカガスの憲法廢止せられたり。後年アケイヤ聯合衰へ又スバルタと葛藤を生じ、スバルタは遂に羅馬に救援を求

めたり。紀元前百四十七年羅馬は委員を派して希臘の葛藤を調停せしめ、遂にアケイヤ聯合を解散せんと欲したり。是に於てアケイヤ聯合兵を擧げて羅馬に抵抗し遂に征服せられて聯合の首府コリンスは焼かれ、其の人民は奴隸と爲されたり紀元前一四六。是後、希臘はマセドニヤにありし羅馬の知事に管轄せられ、紀元前二十七年に至りて中部及び南部希臘を合して一州となし之にアケイヤ州の名稱を附したり。是より後中世の終りに至るまで希臘は羅馬帝國の一部分となりて存したり。羅馬帝國の西部は紀元後第五世紀に北方野蠻人の爲に崩壊したれども東帝國は猶ほコンスタンチノブルの堅城に據りて存続したりしが紀元後一千四百五十三年土耳其人の爲に滅亡し希臘も亦た土耳其帝國の一州となりて封建制度の下に支配せらるゝことゝなれり。

希臘史の終始を貫通して希臘人種の特長は其の智力の偉大なるに在りて存するを見る可し。他の民族は大國家を建設し政治的天才を有して史上に大業を遺したるもあり。波斯人及び羅馬人の如きは即ち是なり。然れども希臘人の天職は此に存せざりしなり。彼等は餘り智力鋭敏にして競争心に富み同民族の一致協



同を組織すること能はざりき。然れども彼等は始めて眞理を追求し、萬物の中に道理を發見せんことを研究し、其の方法を万世に傳へたる民族なり。彼等の短所は何れの國民にも多少存せざるはなしと雖ども彼等が哲學、科學、文學及び美術の上に彰はしたる長所は天下後世の及ぶ可からざる模範として今に文明諸國の尊崇する所なり。

### 第三編 羅馬史

#### 第一章 伊太利の土地及び人民

地中海の南北兩岸 地中海は東西に長くして南北に狭き内海なり、而して南北兩岸の土地は其の性質に於て大に異なれり。亞非利加の海岸は概して岬若くは港灣に乏しく、貿易に適したる天然の地利を有する處僅かに埃及に於けるナイルニルの河口と伊太利に相對しミルチス灣の西に突出せる海角とあるのみなり。此の海角には羅馬に競争したるカーセイジカセジの都會嘗て繁榮を極め、而してナイルの河口には歴山大王によりて建設せられたるアレクサン德里ヤ今猶ほ存せり。之に反して地中海の北岸は四大半島に分裂し、各半島順次に歴史的な事件の演劇場となれり。西洋古代の歴史は最初其の文明の端を東方に開き、而して東より西に進みたるが故に四大半島も亦た其の順序に従て歴史上の範圍に加はりたり。小亞細亞の半島は東方に於ける古代諸帝國の興廢に重要なる關係を有し、希臘之に次ぎ伊太利又た之に次ぎ、而して西班牙半島は近世史に至て始めて其の偉大なる成績を現はしたり。

## 伊太利の地理

以上に述べたる四大半島の中、伊太利は他の半島と異にして其の形長く且つ狭く、概して南東の方位に傾き其の南端に至りて急に南方に曲折す。故に其形長靴の如く其の踵は希臘に向ひ、シ、リ、島は恰かも蹴鞠に似たり凡そ北緯三十八度より四十七度の間に横はり、長さ凡そ七百哩幅は北部の廣き處凡そ三百五十哩、其の南は平均百哩に超ゆること少なし。面積凡そ九万方哩にして英蘇兩國グレートブリテンよりも少しく大なり。現今伊太利王國の全面積は周圍の諸島を合せて十一万六千四百六十六方哩、故に英の合衆王國全部十二万九千七百七十九方哩に比すれば英國よりも小にして日本の本島八万七千四百八十五方哩に對し較々大なるを得るのみなり。

伊太利半島は東にアトリアチク海あり、東南にアイオニヤ海あり而して半島とシシリ島との間には二三哩のメツシーナ海峽あり。又た伊太利の西にはシシリ、サルジニヤ及びピコルシカの三島と伊太利半島との間にチルレニアン海あり其の北にライキリヤン海あり、而して伊太利の北境は即ち有名なる歐洲第一の高山アルプスの山脈にして其の形状は半圓形を爲し、其の西端はゼノアの近傍に於て

海濱に迫り且つアペナイン山脈に接続す。伊太利の方よりアルプス山を登るは困難なれども西方及び北方よりアルプス山を超えて伊太利に入るは左程に困難にあらず。故に紀元前第六世紀アルプス山の北及び西よりゴール人進入し來りて北部伊太利を占領し又た紀元後第五世紀に於て野蠻民族の伊太利を侵すや、東端の低くして通過するに容易なるシュリアン、アルプスは専ら其の通路と爲されたり。今は近世文明的技術の結果によりアルプスを超えて伊太利に入るの道路數多ありと雖ども、古代に於てはアルプスは實に伊太利の要害なりき。

伊太利は希臘と異にして岬若くは港灣に乏しく又た希臘の如く其の沿海に數多の島嶼を有することなし。是れ皆な同一の理由に基づくものなり。伊太利には山脈少なくして唯だ半島を一貫するアペナインあるのみなり。山脈の海岸に突出せるもの之を岬と云ひ、山脈の斷片海上に存するもの之を島嶼となす。故に山脈の少なき處に港灣若くは島嶼の少なきは自然の理なり。半島の西に三大島あり。シ、リ、サルヂニヤ及びピコルシカ是なり。元來シ、リ、島は疑もなく半島の連續にして其の山脈はアペナイン山の斷片に外ならず。近世史上南部伊太利と

シ、リッ合王國を稱して兩シ、リッと言へるもの亦た偶然に非ざるなり。是の如く伊太利が港灣及び島嶼に乏しかりしは其の希臘の如く早く歴史上に頭角を顯はさざりし所以なり、而して其の平原及び山側の地廣く且つ豊饒なるは其の農業及び牧畜に適する所以にして伊太利人が希臘人の如く海上的生活及び殖民的傾向を有せざりし所以ならん。又た希臘の如く山脈東西南北に交錯して數多の小區畫に分裂することなきは其の遂に希臘と異にして統一國家を成すに至りし所以なるへし。

### 伊太利の區分

伊太利の名辭は本と南部に住居したる古代土人の名稱にして最初は伊太利の脚指にのみ適用せられしが紀元前第三世紀の半までには南部及び中部の全躰を包含するに至れり。然れどもアルプス以南メッシーナ海峡に至る全半島を伊太利と稱したるは希臘の史家ポリビオス紀元前一五〇頃を以て始とす而して官府の用語として公然採用せらるゝに至りしはアウガスタスの時代紀元前一四より以後の事に屬す。

北部伊太利 是れバトス河今のの流域にしてアルプス山とアペナイン山との

中間にあり。歐洲に於て最も肥沃なる平原の一にして古來伊太利が北方の野蠻人を誘引したるは之が爲なりとす。古代に於ては之を三部に區別したり。(一)ライギュリア西南にあり(二)カリヤシザルピナ中央にあり又た(三)ヴェネチヤ東北にありき。カリヤシザルピナとはアルプス山の南方にあるカリヤといふ義にしてカリヤツランサルピナ即ちアルプス山の彼方にあるカリヤと區別せられたり。中部伊太利 東はアドリアアチク海に流るゝルピコン河とフレントー河を境とし西はライギュリアン海に流るゝマクラ河とチルレニヤン海に流るゝシラルス河とを境とし西海に濱して(一)エトルリヤ(二)ラチウム(三)カムパニヤの三州あり、又た東海に濱して(四)ウムフリヤ(五)ピセーヌム(六)サムニウムの三州ありき。南部伊太利 紀元前第八世紀以後希臘人移住して此地に繁殖し大希臘マクドニアと稱したり。西方に(一)ルケニヤ(二)ブルッテウムの二州あり又た東方に(三)アフリヤ及び(四)カレフリヤの二州ありき。カレフリヤの名は紀元後第十一世紀頃より南部伊太利の西半島に適用せらるゝとなり、今のカレフリヤは即ち古代のブルッテウムに符合せり。南部伊太利は希臘の海岸に似て伊太利の他部よりも港灣多し、而して

此の差異は歴史上に大なる影響を及ぼしたり。特にシ、リ、島は希臘羅馬の兩歴史に大關係を有し、古代史上アゼンス及びカルセーシの衰亡は此島に於ける勝敗の結果によりて定められり。

### 伊太利の人種

伊太利史の初期よりして中部及び南部は希臘人に類似して近世學者の所謂アリヤン人種に屬する諸民族住居したり。史家は之を伊太利人と稱し且つ之を二大支族に分ちたり。一をオスカン種族(又はウムフロ、サベリヤン種族)と稱し、二をラチン種族と稱す。第一に屬するものはウムブリヤン人、サバイン人及びサムナイト人等にしてアトリヤチク海の側面に住し、而してラチン種族はチルレニヤン海の側面ラチウムラチウムの地に住したり。此外に彼等とは異なる諸民族伊太利の各地に存したり。其中伊太利人種よりも舊きものは伊太利人の爲に驅逐せられて一隅に割據し、又た伊太利人よりも新しきものは後に侵入し來りたる者なり。東北部の極端には、ウエテシヤ人住し近世ウエニス市の名稱を與へたり。又た北西にライギユリヤ人ありしが、二者ともに其の民種は分明ならず。南部のカレブリアにはイヤビヂヤン人住したり。彼等は恐らくは最も早く

北方より半島に進入したるアリヤン人種の遺族なる可し。彼等は容易に希臘人種と混合したりしが故に其の言語は希臘語に類屬したるならんと推定せられたり。伊太利人より後に進入したるものは南部に於ける希臘人、北部に於けるケルト種のゴール人及び中部に於けるエトルスカン人即ち是なり。

又たシ、リ、島にはライギユリヤ人に類似したるシカニヤン人及び羅馬人に類したるシケル人住したりしが漸次希臘人の爲に同化せられたり以上二七頁參照シ、リ、島の土人は伊太利人の爲に驅逐せられて半島より入り來りしものならん。伊太利半島最古の土人と同種族なりしならんといふ。前に述べたる兩シ、リ、島の稱は殊に古來民族同一の理由に基きたるものなりと知る可し。

### エトルスカン人の文明

エトルスカン人はタイパー河(チペリス)の北に當りて山と海との間にある廣濶の地に住し、其の本據とせし處は専らアルノ(アルヌス)河附近の地なりき。彼等は自からはラセンナと稱したり。羅馬人は彼等をエトルスキイ又はツスキイ外人と稱したり。是れ近世に於て古代羅馬人がエトルリヤと稱したる地をトスカニイと稱する所以なり。又た希臘人は彼等をチル

レノイと稱したり。是れチルレニヤン海の名稱今に存する所以なり。古代に於いては北部伊太利の全部に蔓延したりしが彼等はゴール人の侵入によりてポ  
ー河以北の地を失ひたるものゝ如し。其の起原明白ならざれども彼等は北方より伊太利に入り先づポ  
ー河の流域を占領し次にエトルリヤの地を征服し、此地に住したるウムブリヤン人をタイバ  
ー河の上流より東方の山地に驅逐したるものならん。十二の市府ありて聯邦を組織し王を戴きたり。然れども其の聯合は甚だ散漫なりしに似たり。ポ  
ー河の地方にも又た他の十二市府ありて聯邦を組織したりしが此の聯邦は第一よりも舊きものなりしならん。然れどもゴール人の爲に其の土地を奪はれたり。此の聯邦の首府はフェルシナ(今のポロニヤ)にしてマンツア及びラウエンナも亦た之に屬したり。紀元前第六世紀彼等の盛なるや一時ラテウムの上にも其の勢力を振ひたり。而して其の南方カムバニヤにも第三の聯邦を組織し、カファは其の首府なりしがポ  
ー河附近の地を失ひし時より少し以前にサムナイト人の爲に征服せられたり。而して羅馬の興起と共にエトルリヤ本部の勢力も亦た衰微に屬したり。

然れども羅馬の來だ興起せざりし頃、彼等は伊太利に於て最も強盛且つ開化したる民族なりき。其の政體は貴族的にして上に撰舉せる王を戴きたり。各市府に於てユビター(天神ユピター)及びミナルバ(智慧の神)の三神を崇拜したり。羅馬人は王政の晩年一時エトルスカン人を王に戴きしことあり、而して此時より以上の三神を羅馬の三神として敬信するに至れり。エトルスカン人は希臘人より得たる一種の文字を有し且つ許多の誌文を遺したり。然るに亞西里亞及び埃及の古代文字を解讀することを得たる歐洲の學者は今に此のエトルスカン人の死文字を復活せしむること能はずして彼等の民種すら明白ならざるは奇と謂ふ可し。最初の羅馬人が其の宗教及び政體に於て彼等に負ふ所多きこと其の後年大に希臘人の文明に負ふ所あると同一なるは疑ふ可からざるに似たり。

### 羅馬史の特質

伊太利の初史は第一オスカン種族がラチン種族及び希臘殖民地を壓迫したる事實及び第二に凡ての民族が遂にラチン種族の一市府たる羅馬の權下に制服せられたる事實を叙説するに外ならず。希臘の歴史は一國の

歴史に非ずして列國史なり、而して羅馬の歴史は終始一國の歴史なり、然かも羅馬といふ一市府の歴史なり。羅馬が如何にして始めラテウムの首府となり、次に伊太利の首府となり、終に地中海に接したる世界の首府となりしかを叙説するものを羅馬史となす。

羅馬帝國は今古西洋の歴史に於ける中心的大事實なり。極東諸國を除くの外古代の諸國民は一々羅馬に征服せられ其帝國の州領に編入せられたり。西部亞細亞及び埃及に發生したる文明は希臘に傳播して大に發達し一たびマセドン王アレクサンデルの爲に統一せられたりしかども大王は未だ能く之を組織するに遑あらずして長逝し其の帝國は分裂して數多の大小諸獨立國となれり而して遂に之を統一したるものは羅馬なり。且つ歐洲近世の諸國は皆間接直接羅馬よりして其の文明を傳受したるが故に羅馬は西洋史上古今の連鎖にして古代の文明は悉く羅馬に注ぎて歴史上の大湖となり而して近世の文明は概して羅馬より流れ出るの觀あり。蓋し地中海に於ける伊太利の位置及び伊太利に於ける羅馬の位置は此の結果を生ずるに亦與りて大に力あるを見る可し。南部歐羅巴より突出

する三大半島の中伊太利は其の中央に在りて地中海を東西に横斷し、而して羅馬は伊太利の中部に位して半島を南北に兩分するを得べき形勝の位置を有したり。英國の史家フリーマンが言へる如く世界史上に於ける希臘の天職は人類を教訓するに在り。希臘は其の歴史上の成敗、人物及び哲學、文學及び美術によりて天下後世の師範となれり。而して世界史上に於ける羅馬の天職は實際的にして人類を支配するに在り。天下を征服し之を法律に與へて能く統治することは羅馬人の天才なりき。獨逸の法學者エーリンクは羅馬は三たび天下を征服したりと言へり。一たびは其の兵力により(古代)二たびは其の宗教により(中世)三たびは其の法律によりて天下を征服したり(近世)。歐羅巴の諸國を觀察するに其の言語、法律、風俗、習慣に於て甚だ相異なるものあるを發見す可し。然るに尙ほ之を總括して歐洲文明と稱するは何ぞや。是れ其の以上の差異あるに拘らず、列國の文明に共通の要素ありて東方諸國の文明と大に異なる所あればなり。近世の歐洲列國が亞細亞、亞弗利加の諸國に比して其の相互に類似するの點多きは何ぞや。是れ唯だ其の人種の同一によるに非ず、又た其の人種、言語等に於て相近きによるのみに

非ず。而して之を説明するは羅馬史なり。近世列國の起原其の相異なる所以而して猶ほ其の相互に大に相似たる所以を解釋するものは羅馬史なり。夫れ歐洲列國をして差別の中に斯の如く類似の點を有せしむるに至たりる大理由は彼等が羅馬人に征服せられ又た支配せられ而して列國は皆な羅馬人の法律言語風俗及び習慣に負ふ所甚だ大なるの事實即ち是なり。列國が類似の中に尙ほ差異あるは彼等の或るものか羅馬人に負ふ所他よりも多きが故なり。列國の中或は多く羅馬人の文明及び思想を吸収したるものあり或は多く羅馬帝國を瓦解せしめて新國民を創立したる日耳曼人の風俗及び觀念を保持したる者あり。故に列國の相同むくして又相異なる所以一に其の羅馬に對する距離の遠近及び其の羅馬より受けたる感化の深淺如何にありと言ふことを得べし。

然るに羅馬が是の如き位置を歴史上に占有するに至りしは其の先づ伊太利を統一し遂に地中海濱の萬國を征服し之を支配し之に羅馬の法律を賦與し以て彼等を同化するの勢力を有したるが故なり。羅馬の歴史は終始羅馬市の歴史なり。されば羅馬史を研究するに當りて吾人の注目すべき問題六個あり。

(一)伊太利の諸市中獨り羅馬のみ如何にして能く伊太利を征服し又た天下を征服したる乎。

(二)羅馬は如何にして是の如き大征服者たる資格を養成したる乎。

(三)羅馬は如何にして伊太利を征服し、又た天下を征服したる乎。

(四)羅馬は如何にして其の征服したる土地を保持したる乎。

(五)羅馬は一たび天下を征服したる後如何にして之を統治したる乎。

(六)羅馬は如何にして遂に衰亡に歸したる乎。

### 羅馬史の區分

羅馬史は之を三大時代に區別することを得べし。

- 第一 王政時代 紀元前七五三—五〇九
- 第二 共和時代 同 五〇九—二九
- 第三 帝政時代 同 二九—紀元後四七六

更に共和時代を左の四期に區別することを得べし

- 第一期 階級競争の時代 五〇九—三六六
- 第二期 伊太利統一の時代 三六六—二六四
- 第三期 伊太利外征服の時代 二六四—一三三
- 第四期 革命内亂の時代 一三三—二九

又は帝政統一の時代を左の三期に區別することを得べし

第一期	二元政治	紀元後	二九—一九三
第二期	羅馬帝國の黄金時代		九六—一八〇
第三期	武斷政治		一九三—二八四
	獨裁政治		二八四—四七六
	東西兩帝國發生の時期		

羅馬史は通例紀元後四百七十六年西羅馬帝國の滅亡を以て終局とすと雖ども、  
 ンスタンチノブルを首府となし又た希臘文明を基礎としたる東羅馬帝國は紀元  
 後一千四百五十三まで年々で持續したり。又た紀元後八百年西歐羅巴に於て復興せ  
 られたる新羅馬帝國は後に聖羅馬帝國と稱し紀元後一千八百六十年まで存續した  
 り。西羅馬帝國は日耳曼人の爲に顛覆せられ、東羅馬帝國は土耳其人の爲に陥落  
 し、而して聖羅馬帝國は大ナポレオンの爲に亡滅に屬したり。第一は通例史家が  
 上世史の終局となし第二は中世史の終局となし又た第三は最近世史上の大事事件  
 にして羅馬の實力及び名稱が如何に永遠なる感化を及ぼしたるかを知るに足れ  
 り。

第二章 王政時代 紀元前七五三—五〇九

第一の問題

羅馬はタイパーの河口を去ること凡そ十四哩にして其の左岸  
 にある數個小山の上に建設せられたり。其の建設の後百五十年にして城壁の中  
 に七山を包含したり。故に往々羅馬を七重山都と稱するとあり。凡そ歴史上の  
 大國家にして最も細微なる淵源より漸次に膨脹したるもの羅馬に如くはなし。  
 波斯及びマセドニアの如き既に一個の民族ありて唯だ組織者の出で來らんこと  
 を待てり。カーセーショナルの盛榮は本國フィニシヤの素養を以て其の基本と  
 なしたり。之に反して羅馬の起るや一小市府にして其の背後に大民族を爲し、若  
 くは舊文明を養成したる祖先ありしに非ず。羅馬人は全く最初より萬事を創設  
 するの境遇に立てり。彼等は先づ民族を組織し、又た民族的品性を形成するの必  
 要に遭遇したり。彼等は經濟上の富を有せざりき。彼等は又た政治上の經驗を  
 學ばざる可からざるの位置にありき。而して彼等は凡て是等の事に於て成功し  
 たり。且つ其の市民を鼓舞したる精神の強盛なるや遂に之を以て伊太利全島の  
 人民を同化し、而して剩さへ其感化を半島以外の人民に波及せしめたり。伊太利



の諸市獨り羅馬が是の如く優等なる勢力を發生することを得たる原因は何ぞや。伊太利に數多ありし諸市の中羅馬のみ大帝國の中心たることを得たるは何故ぞや。羅馬は伊太利の他の諸市に比して地味、氣候若くは地理上の位置に於て大に勝るゝ所ありしが爲めか。曰く然らず。羅馬附近の地味は比較的貧瘠にして氣候大に健康に適し位置甚だ貿易に便なりしといふに非ず。羅馬は固よりタイバ―河上にありてラチウム地方商業の中心たるに最も適したるは事實なり。然れども羅馬は良港を缺き且つ背後に輸出の材料を供給し且つ輸入の市場たる可き豊饒の土地あらざりき。故に羅馬は彼のコリンス若くはカーセージと同様の意義に於て貿易の都會なりしといふことを得ざるなり。

然らば羅馬は其の人種に於て四隣の民族よりも優等なりしといふことを得るか。曰く然らず。昔時はホーマー詩中のツロイ城陥落の後ツロイの貴族エーテアス來りて其の子孫ラチウムに王たりしとの傳説専ら羅馬人中に信用せられたれども近世批評の結果によりて此の傳説は排斥せられたり。羅馬人は始より四隣の民族に比して特に勝れたる所ありしと言ふことを得ざるなり。是の如く羅馬人

をして偉大ならしめたる所以のもの其の地理にあらざ、又た其の人種にあらざとせば之を他の原因に歸せざる可からず。波斯帝國の勃興にはサイラスなる英雄あり、マセドニヤ帝國はフィリッポ及びアレクサンデル大王の創立にかゝり、中世アラビヤ帝國の興起膨脹にはマホメットなる偉人ありて其の大事業を開設し又た近世普魯西の盛大は代々英邁なる君主ありて其の基礎を起したり。然るに羅馬は古來偉大なる個人に乏しく特に其の初期に於て然りとす。羅馬はソロン、ペリクリース、エバミノンダス又はアレクサンデル若くは近世のシャールメーン、彼得大帝、フレデリック大王又はワシントンの如き天才ありて之を偉大ならしめたるに非ず。ロムユラス、ヌマ、セルウィウス、及びアルタス等の名ありて羅馬人は之を事實と信仰したれ共其の事は傳説の時代に屬し未だ正史時代の人物に非ざるなり。羅馬は平均的能力を有する多數無名の人民によりて漸次に偉大なる國民とはなりしなり。固より單一の原因によりてのみ之を解釋するを得ざる可し。

問題に對する解釋 第一は羅馬の位置なり。羅馬と其の四隣の市邑とを比較するに各々要害の地に據りて設けられたるは一なり。然れどもタイバ―河

畔に於ける羅馬の如く各々割據するに適したる七重山の上に建てられたるものなし、而して七山の距離たるや餘りに接近したるが爲に各山に割據したる民族は到底久しく政治的孤立の位置を保守す可からずして一致結合若くは同盟聯合を爲すの止む可からざる境遇に立てり。バラチン山に割據したるラチン民族とクイリナル山を占領したるサバイン人との間に鬭争ありて遂に一致團結して羅馬盛大の基を開きたりとは傳説の言ふ所にして又事實なりしならん。羅馬の制度に於ても亦た三民族一致の形跡歴然として見るとを得べし。是の如く協同一致は羅馬市民に向つて最初より止む可からざる生活の必要件なりしなり。是れ羅馬人が内部に於ては常に革命を避けて改革を事とし、極端に及ばずして讓歩を爲し、利害得失を計算するの政治的智慧和有し而して之に加ふるに公共的正義の觀念を以てし、古今無比の社會精神を養成したる所以なり。七重山は一市邑となりて其の位置鞏固となり次にはラチウムの諸市邑を同盟せしめ遂には全伊太利をして一大聯邦國たらしむるに至れり。

以上は第一の原因なり、而して第二の原因も亦た之を察するに難からざるなり。

土地豊饒ならず、天然の恩恵に依頼する能はず、故に人民勇敢ならざるを得ざりき。土地健康に適せず、故に往々敵の襲撃を免かれ海港より遠かりしは偶々海賊の難を避くるの便ありしならん。タイバー河上の羅馬はラチウム附近諸民族の會合點にして自他防禦の爲め軍事上の良地位を占め且つラチウム貿易の中心點たりしならん。且つ半島の中央に位したり。故に南北を兩斷して敵勢を分離せしめて相聲援する能はざらしめ遂に四隣を征服することを得たり。而して中部伊太利の諸民族概して同一人種に屬したりしことは其の伊太利統一の上に大なる便宜を與へたり。

要するに羅馬のタイバー河上に於ける位置はラチウムの他の諸市に比して二個の長所を有したり。第一は其の軍事上要害の地位なりしこと是なり。タイバー河の北岸羅馬に對して一の山ありしが羅馬人は木橋を架して之を羅馬に連絡せしめ以てエトルスカン人を防ぐの要塞となしたり。羅馬はラチウムを防禦するに最も重要な位置なりしことを知るに足れり。第二は其の商業上の良地位なりしこと是なり。タイバーは伊太利第一の大河にして舟行に適し而して羅馬は

其の中心に位したり。前述木橋の上に一小島ありて自然に舟筏航行の本據となれり。羅馬人はタイパー河口オスチャに殖民して要港となし内外貿易の便を開きたり。第一の原因と第二の原因とは相合して遂に羅馬富強の基礎を爲したるものなる可し。

### 羅馬の起原

七紀元前

羅馬の正史は紀元前第五世紀の始より以後の事に屬す當時は既に共和制の時代なりしと雖ども傳説によれば是より以前羅馬は君主によりて支配せられたり。羅馬は遂に古今無比の大帝國となりしが故に其の起原に就ては種々なる傳説起りて羅馬人の間に信用せられたり。

傳説によれば希臘の詩人ホーマーに謠はれたる小亞細亞ツロイ落城の後エーチアスといふ人脱かれて伊太利に來りラチュムの海岸にラウイニウムといふ一邑を建設したり。其子アスカニウスは王都をアルバロンガに遷し子孫三百年間ラチュムの諸邑を支配したり。然るにプロカスといふ王の死後に至り二子位を争ひ少子アムリウスは長兄ヌミトルの位を奪ひ其の子を殺し其女を火神ウニスタの巫女となせり。處女の名はレーア、シルウィアと言へり。然るに軍神マルス此

の處女に通じて双兒を生みたり。是に於て處女は破戒の罪によりて死刑に處せられ、其の双兒はタイパー河に棄てられしが牝狼來りて之に乳を與へ遂に牧者に救はれて成人し、後年祖父の爲に兵を擧げてアムリウスを殺し祖父ヌミトルをして其位に復せしめたり。双兒の名は兄をロムユラス、妹をリーマス、と云へり。彼等はアルバに住するを欲せず、天佑神助の地たるタイパー河畔に一邑を建設し而してロムユラスの名によりて之を羅馬と稱したり。弟リーマス之を不快として兄の節度に従はざりしが故に遂に其の爲に殺され羅馬に敵する者の鑑戒とせられたり。此時にラチュムの諸方より壯士多く來集したりしか皆な男子のみにて女子なかりしが故にロムユラスは四隣の諸邑に其の女子を妻に與へんことを請求したり。然るに壯士多くは盜賊無頼の徒なりしが故に四隣之に應ずる者なかりき。是に於てロムユラスは計を設け祝祭を舉行して周圍の人民を招待したり。サバイン人等も亦た其妻子と共に來集し遊戯を見て餘念なかりしが羅馬の壯士等は武器を携へて妙齡の女子を奪ひ去りて妻となしたり。是より兩民族の間に戦争起りサバイン人は其王タイタス、テシアス、チツス、を首領と

して襲ひ來りタイリナル山に據りて羅馬人の占領したるカピトライン山を圍み遂に之を略し羅馬人の本據たるバラチン山下に激闘したり。奪ひ去られたるサバイン人の女子等は父兄と良人との間に身を投じて勝敗何れに決するも彼等の悲歎に外ならざれば共に和睦するか然らずんば戦争の原因たる彼等を殺さんとを哀求したり。兩民族遂に婦人等の請求に従ひ雙方和衷協同して永久一邑の人民たらんことを約しザバイン人も遂に羅馬に定住し其の王タイタス、テシアスはロミュラスと並び立ちて共同の王となれり。斯くて羅馬は其の區域及び人口に於て倍加したり。テシアスは後に戦死しロミュラスのみ單獨にて兩民族の上に支配したり。彼は國家の制度を組織し建設の業を大成したる後遂に暴風雷雨に乗じて昇天したり。是に於てサバイン人ヌマは撰ばれて王となり四十三年の間平和の政を施したり。ロミュラスは政治上の制度を創設し、ヌマは宗教上の制度を組織し共に神佑天助によりて奇功を奏することを得たり。

以上は神話的傳説にして獨逸の歴史家ニールが一千八百十一年に始めて羅馬史の批評を著せし以來今は之を信ずるものなし。羅馬の起原をツロイ落城の

事に聯關せしめたるは後世希臘史家ステシコロス紀元前第六世紀及びチメーオス同第三世紀等の作爲に過ぎずと云ふ。夫れ社會は成長するものにして製作せらるゝものにあらず。ロミュラスなる一個人が羅馬を建設し彼れの名によりて羅馬と稱したりといふは後世の傳説にして實は羅馬なる社會先づ起りて後に其の起原を説くの必要を生じ、ロミュラスといふ神話的人格を想像して其の創立者となすに至りしものならん。蓋し羅馬人は本とラムチスと稱したりと云へば以て傳説の牽強附會なることを知るに足り而して名稱の何時如何にして起りしか固より考ふ可からざるなり。社會の法律及び宗教制度は自然に成長發達するものにして個人的に製作せらるゝものにあらず。羅馬の古代に於てロミュラス及びヌマの二人が凡て是等の制度を建設したるにあらざること固より論なし。是れ皆な後世羅馬に存したる諸制度の起原を説明するの必要より自然に發生したる傳説に外ならざる可し。

又たサバイン人の婦女子を強奪したりといふ物語も羅馬人の結婚式に男子が女子を強奪し去るの形式存したるが故に後世此の儀式の淵源を説明せんとして斯

る物語を生ぜしなる可し。強奪結婚の事は未開の人民には事實行はるゝ所の制度にして今に文明諸國の習慣に其の遺紀を存するを見れば未だ遊牧時代の生活を全脱せざりし最古の羅馬人には或は眞實の習慣なりしやも知る可からず而して後世まで羅馬人の結婚式に其の遺紀を存せしものなる可し。蓋し羅馬が強盛となりし以前ラチウムの全州に獨立の諸邑ありて充滿せしことは事實なる可し。又た是等の諸邑が一の聯合を組織してアルバ、ロンガを其の首領と爲せしことも亦た信用するに足る可し。正史時代に於いてアルバ、ロンガは零落の中にありしに拘はらず、ラチウム全州の人民は年々其の舊址に近き神社の地に集會し大祭を執行したり。當時羅馬は祭主たりしと雖ども疑ふらくは本と是れアルバ、ロンガに屬したる位置なりしならん。然らざれば何故に正史時代において此の大祭を零落したるアルバ、ロンガの地に舉行するに至りしかを説明すること難し。畢竟羅馬は元來ラチン人により邊境の要塞として占領せられしものなる可し。されば羅馬人は即ちラチン民族にして今日に至るまで彼等の言語をラチン語と稱するは以て其の人種上同一の民族なりし證左となすことを得べし。又たサバ

イン人が東北より襲ひ來りて羅馬の一山に割據し其の遂に他山に割據したる羅馬人と合同したりといふことは事實なりしならん。蓋し羅馬の最も古き制度中には史家が皆なサバイン人に淵源したりと斷定する所のものあればなり。彼等はラチン人に類似したる民族にして此の兩民族の合同は將來羅馬をして富強を爲さしむるの基となりしならん。

### 諸王の傳説

ヌマの死後ラチン人なるタラス、ホスチリアス、チリウス、ホス王に擧げられたり。彼はロミユラスの如く武勇にして四隣の諸邑と戦ひ特にエトルスカン人の根據にしてタイバー河の北にありたるウユーイー市及びラチウムの首市たりしアルバ、ロンガと戦ひ、アルバは遂に彼れの爲に亡ぼされ其の人民は羅馬に移され、羅馬は之に代りてラチン諸市聯合の首府となれり。第四代の王安カス、マルシアス、ルチウス、マはサバイン人にしてヌマの孫なりしと云ふ。彼の政策は平和にして内部の鞏固ならんことを勉めしが故にラチン人謀叛したりしが彼は遂に之を征服したり。又たエトルスカン人と戦ひタイバー河の北岸にあるジヤニキユラス、ルキウス山を占領して要塞となし木橋を架して兩岸を連絡せしめた

り。彼は又たタイバーの河口にオスチアの港を開きたりと云ふ。

第五代の王タルクイニウス、プリスカススタルクイニウスはエトルスカン人にして彼の治世は羅馬王政時代の一大變化なりと言ふ可し。蓋し是より以後の王は皆なエトルスカン人なればなり。此によりて羅馬人は其の傳説に反してエトルスカン人との戦争に失敗したることを想像するに足ればなり。此のタルクイニウスの治世は王政時代の光榮を輝かすものにして四隣の敵に勝ち大に羅馬市中の大工事を成就したり。バラチン山、カピトライン山及びクイリナル山の間にある低地の水をタイバー河に疏通する爲に地下の大溝渠を設けバラチン山とアベンチン山との間の低地を開きて大競馬場となし又た大溝渠はクロアカ、マキシマと稱し、後世の驚歎する大工事にして其の構造はアーチの原則を適用し今に存在して其用を爲しつゝありといふ。カピトライン山にジュピター神の爲に羅馬第一の大神殿を建設したり。然れどもタルクイニウスは前代の王アンクス、マルチウスの諸子の爲に殺されたり。

第六代の王サーウィウス、タリアスセルウィウスは先王の女婿にして直に先王に代

り位に即きたり。彼は古代の羅馬に於て最も重要な憲法上の改正を爲し、従來羅馬の市民中に編入せられざりし多數の平民にも市民の義務權利を負擔せしむるとなせり。彼は血統に關せず土地所有の資格即ち所得額に従つて全人民を五級に分ち其の資力に應じて兵役及び納税の義務を負はしめたり。彼は羅馬の頂土を二十一區に別ち又たラチン人と永久なる同盟の約を結びたり。又た彼の名は始めて羅馬の七山を包圍したる城壁の建設者として永久に傳はれり。然れども此の城壁は彼より少くとも百年以後の構造に屬すと云ふ。彼は平民の王として多數の人民に愛せられたり。然れども晩年その女婿タルクイニウス、シニウスタルクイニウスの爲に殺されたり。是れ則ち最後の王にして彼は先王の遺法を用ひず僭主として專制政治を行ひたり。彼は成功して羅馬の政權を握り又たラチン人と戦ふて之を征服したり。治世二十四年にしてラチン諸市服せざるもの僅かにアルデアの一邑ありき。王之を圍みたりしが一夕王の諸子は軍中徒然の餘り其の從兄弟たるタルクイニウス、コラタイナスタルクイニウスと食を共にし各々我妻の賢徳を誇稱したり。爰に於て愈、その事實を確めんと欲し馬に



ス、三はルセレスルケと云ひ、第一は則ち羅馬人、第二は則ちサバイン人、第三は或はエトルスカン人と云ひ、或はラチン人と云ひ、史家の説一定ならず。又た各部族を十區に分ち、總計三十區をなせり。市民は王の召集により相會して國事を議し、票決は區を基礎として定められたり。即ち何事を議するにも各個人は先づ區の中にて票決し、而して其の賛否を表する區の多數によりて決定せられたり。之をクリアタ會議クリアタと稱す。凡て法律は此會議の承諾を要し、又た王の大權も此會によりて賦與せらるゝことを必要とせり。王の大權リウムとは大元帥たるの權、又た凡て死活に關する事件に於ける最高の裁判權にして、王は此權を有するが故に常に十二人の警衛ウラを従はしめたり。警衛は斧を挟みたる杖を携へたり。王は選舉の後獨裁權を有し、唯だ法律を變更し、若くは攻撃的戰爭を開かんとする場合にクリアタ會議を召集するの義務を有したり。王の裁判宣告を受けたる市民は赦免せられんが爲にクリアタ會議に控訴するの權を有したれども、先づ王の承諾を得ることを必要となせり。

又たクリアタ會議の外に元老院セネト、即ち家長の會議ありて、王の顧問府たりき。

元來百人なりしがサバイン人と結合の後二百人となりたり。當時ルケレスの部族は未だ元老院に代表權を有せざりしが、第五代の王の時他の部族と同じく元老院に家長を出すこととなり、元老院はこゝに三百人となれりといふ。

(三)軍事上の制度　軍事上三部族は各々歩兵千人、騎士百人を出し、總計歩兵三千、騎兵三百之を軍即ちレキオンと稱したり。三百の騎士は青年中の最も精銳なるものにして、又た王の親衛隊なりき。

(四)宗教制度　傳説によれば、宗教制度はヌマの組織にかゝれりといふ。然れども古代の社會は必ず宗教を基礎とするものなるが故に、是より先き全く宗教制度なかりしといふに非ざる可し。ロミュラスの時既に飛鳥によりて占を爲し、之によりて神意は示現せらるゝものと信じ、社會は神の擁護に依頼したり。

ヌマは諸神の崇拜を整理し、其他宗教上の事件を決定する爲に四人の神官ポンチフを設け、其上に一人の主長ポンチフを置きたり。是れ則ち王の宗教會議にして、羅馬人中の最も賢明なるもの、此官に擧げられたり。又た特に羅馬人の保護神たるマルスマルス神及びサバイン人の軍神クイリヌスを祭る爲に、各々二人の神官を置き、之を



フラメンと稱したり。諸神中の最大神たるジニピター天を祭る爲めにも同しく特別の神官設けられたり。又た卜筮によりて神意を知る爲めに四人の占官置かれ、羅馬の母市たるアル、パロンガより携へられたるウエスタ神の聖火を保護する爲に四人の巫女置かれ、戦時と平時とを別つ爲めに両面を有するジニピター神の神殿建設せられたり。ヌマの治世中平和の徴としてジニピター神の扉は閉鎖せられたりしが爾後第一ピユニク戦争一回後の外皇帝アウガスタスカがヌマは之に二ヶ月を加へ三百五十五日となせりと云ふ。

サーウィアスの憲法 第六代の王サーウィアス、タリアスセルウィウスは後期諸王中最も賢明にして王政時代の一大變革を爲したる人なりと言ふ。彼れの時に至りて庶民の勢力漸やく増長し來りたるが故に、彼は第五代の王タルクィニアス、プリスカスの爲さんと欲して成す能はざりしことを成就したり。軍隊及び議會の新組織即ち是なり。其の原則は希臘に於けるソロンの憲法以上三頁と同一にして所謂富族政治オホコソウに外ならざりき。元來此の改革は羅馬の兵力を増加し而

して公共の負擔を平均せんとするの目的を有したり。從來兵役の義務は單にパトリシアンの階級のみに残したりしがサーウィアスは貴庶の別なく凡そ土地を所有する者は其の財産收入額に應じて之を五級に分ち、各級を百員隊に分ち又た各級の百員隊は若年隊十六歳以上四と老年隊六十歳以下との二種に分れたり。第一級は百員隊八十個を出し其中四十個は若年隊四十個は老年隊にして前者は戦場に出て後者は郷土を留守したり。第二級、第三級及び第四級は各々百員隊二十個を出し第五級は百員隊三十個を出し、各級の百員隊何れも半個は若年隊半個は老年隊にして常備兵役と國民兵役との二者に區別せられたり。其の武装も亦た各級に於て異なれり。其の組織は左表の如くなりき。

百員隊	凡て第一級に屬す	馬及び養馬料は國家より給す。
甲、 騎兵 六個 <small>(パトリシアン)</small>		土地二十ツユケラ <small>(ユケラ)</small>
乙、 歩兵 八十個 第一級		收入一〇〇、〇〇〇アス
	合計十八個	土地第一級の四分三
		收入七五、〇〇〇アス

胸甲を用ひず、防禦には兜、輕楯、脚甲、攻撃には劍及び鎗を用ひたり。  
 二十個 第三級 土地第一級の半分 收入五〇、〇〇〇アス  
 防禦には兜及び輕楯を用ひ攻撃には劍及び投鎗を用ひたり。  
 二十個 第四級 土地第一級の四分一 收入二五、〇〇〇アス  
 防禦の武具なく鎗及び投鎗を以て戦へり。  
 三十個 第五級 土地第一級の八分一 收入一五、〇〇〇アス  
 防禦の武具なく投石器、弓等を以て戦へり。

此外に

二個 第一級に伍す 工兵 工匠及び鍛工  
 三個 第三級に伍す 員外兵、喇叭手等

百員隊總計百九十三個 人口増加するも百員隊の數を變せず各隊に新兵を編入したり。故に百員隊は往々百人以上に及びたりといふ。

二十ジュケラは凡そ我が面積四町餘、而してアスは羅馬古代の銅貨我が四錢位に當ならん是の如く貴庶の別なく人民を五級に分ち攻撃的戰爭を開始するとき王は先づ此の軍隊に諮詢したり。是れ則ち百員隊會議コミシア、センヤリアタの起原なりと言ひ傳へられたり。而して議決は百員隊を基礎としたるが故に、議決は頭數の多大なるによらずして百員隊の多少に存したり。然るに第一級は騎兵十八隊歩兵八十隊にし

て合計九十八隊となり、自餘の階級は四級相合するも九十隊に過ぎざりき。故に百員隊會議の票決は常に第一級の權内に屬したり。當時兵役の義務は自費制にして富者は武具を完備して先鋒たりしのみならず、戦税を要するときも其の財産に應じて巨額の負擔を爲したれば以上の制度は決して不公平にあらざりしことを知る可し。又た議會に於て老年隊は壯年隊と同一の票數に計算せられたるは是れ只だ老成者に重きを置き以て壯年隊の客氣を制したるの證なりと見ることを得べし。蓋し老年隊は其の内部の頭數自から壯年隊よりも少かる可きは必然の結果なればなり。

百員隊會議の特權は軍事上のみに關し、凡て其餘の權力は従前の如く依然貴族の制度たりシクリアタ會議に存したり。サーヴィアスの改革は最初庶民に何の權利をも與へずして殆んど義務のみを負擔せしめたり。然れども既に國家の爲に義務を負擔する以上は遂に權利を享有するに至る可きは當然の事にして此の改革は即ち之が爲に道を開きたり。是より土地を有する庶民と土地を有せざる住民とは全たく區別せらるゝに至れり。

### 古代羅馬の社會

羅馬の歴史を通して最も勢力を有したるは家長權パトラスが帝政の晩年に至ても尚ほ其の痕跡を存したり。家族の中にありて家長は王たり祭司長たりき。妻子眷屬は彼の所有物にして之れを賣り又た之を殺すことを得たり。家族の中にては家長即ち主權者なりき。家長權の行用に關して彼れの責任を問ふ可き裁判所あらざりき。此の制度は羅馬の社會に於て政治の上にも最も大なる影響を及ぼしたり。羅馬の政治制度に於て其の根本的要素といふ可きは姓ゲネスなりき。同姓の組織は家族の大なるものなりき。數多の家族は同一の姓に屬し共同の祖神を拜し互に財産を相續するの權を有したり。是等の姓は三百ありしと云へり。羅馬は三百姓の社會にして元老院議員の數に符合せり。又た三部族の各區は十個の同姓を包含したり。姓を有する者は皆なパトリシアンと稱せられたり。或は家長パトラスの權下にありしが爲め或は無姓の人民に對して保護者パストロの權を有したるが爲めなりと云ふ。庶民パブスの起原に就ては是れ亦たロミュラスの意志により人民を貴族及び庶民

に分ちたりとあれども隸屬の階級は是の如く立法者によりて制定せらるゝものに非ず。羅馬の庶民は征服の結果により隸屬の位置に落されたる人民なりしなる可し。羅馬に征服せられたる諸市の人民は悉く此の庶民に編入せられたり。故に庶民は決して貧民と同一の意義にあらざりしなり。

本章以下は時間と紙幅の切迫により極めて簡単に解説を爲すこととなしたれば本編は前二編とは大に其趣きを異にせり。讀者請ふ之を諒せられよ。

### 第三章 伊太利征服の時代 紀元前三六六—三六四

#### 共和制の憲法

羅馬が王政を廢したるは希臘アセンスに於て僭主ヒッピアスが人民に放逐せられたると殆ど同時の事なりとす紀元前五一〇。羅馬は王を放逐したるのみにて之が爲に特に社會上若くは政治上の組織を變更するとなかりき。唯だ一人の君主制に代ふるに二人の合議制を以てし且つ其の任期を一年となし、而して之に與ふるに殆んど君主と同一の權を以てしたり。二人の統領は最初ブレイトルと稱し後にコンスルと改め之を獨り貴族の中より選舉したり。元老會議及びクリア會議元の如く存し特に元老會議は其の權力を増加したり。クリア

會議は衰へたれども百員隊會議は新に權力を賦與せられてコンヌルを選擧し又たコンヌルによりて死刑の宣告を受けたる者は此の百員隊會議に控訴することを得たり。

### 共和制初年の困難

王政廢止の後羅馬は内外に困難ありて其の勢力王政時代の如くならずラチン諸市は獨立し、且つタイパー河以北のエツラスカン人及び東方のオスカン諸族に壓迫せられたり。然るにオスカン種族はラチン種族共同の敵なりしが故に羅馬とラチアム諸市とは平等なる同盟を約したり紀元前四九三當時羅馬の困難は殊に内部に於ける貴族と庶民との競争に存したり。羅馬は之が爲に久しく其勢力を外部に膨脹せしむることを得ざりき。是時北部伊太利にはゴール人侵入して之が爲にエツラスカン人は壓迫せられたり。羅馬は其の勢力の衰微に乗じてタイパー河の北にありし彼等の首邑ウエーイーを略することを得たり紀元前三〇九六頃。然れども六年の後ゴール人は羅馬を襲ふて之を焼き非常の災害を加へたり。爾後内部に於ける貴族庶民の軌轢甚しかりしが貴族も漸やく庶民に參政權を與ふるの必要を認識し、紀元前三百六十六年庶民を以て統領の

人たらしむるを許可したり。是より羅馬の内部一致し其の勢力は漸次外部に向つて膨脹することゝなれり。

### サムナイト戦争

紀元前三四三—二九〇

是れ羅馬が伊太利の統一者となるか若く

は其の東南に住したるサムナイト人が伊太利の最強者となるかを決したる戦争なり。サムナイト人は南部伊太利に於て大勢力を有し他の伊太利人及び南方の希臘人を壓迫し遂に羅馬と大衝突を爲し、前後三回の大戦争となれり。中間羅馬はラチン同盟との戦争を爲し紀元前三四—三三八、又たサムナイト戦争の後期にはサムナイト人と同時にエツラスカン人及びゴール人等と戦ひしも羅馬人の一致團結によりて遂に凡ての敵に打勝ち、南方に於ける希臘諸市の外凡ての伊太利人は羅馬の同盟者なるに至れり紀元前二八二。

同盟諸市に對する羅馬の權勢は希臘史に於ける一の市府が他の市府を支配する方法と同一にして征服せられたる市府は矢張り獨立の國家として自治權を有し、唯だ羅馬人に服従して戦時出軍の義務を負ふのみなりき。然れども伊太利の或る諸市は同盟諸市よりも多くの特權を有したり。是れ羅馬人が希臘人と異なる

る所にして彼等は其の近隣の諸市に或は羅馬市民の十分なる特権を與へ、或はラチン權なるものを與へたり。此のラチン權とは羅馬人がラチン人を征服したる時之に存せしめたる特権にして此特権を有する諸市の人民は或條件に依り羅馬に移住し其の市民權を得有することを許可せられたり。故に伊太利の自由なる人民中には三種の階級ありて存し、第一は羅馬人、第二はラチン人、第三は自餘の伊太利人即ち同盟諸市にしてラチン權を得るは伊太利人の榮轉となし、又た羅馬市民權を得るはラチン人の名譽となし、一は以て被征服者たる全伊太利人の利害を分離せしめ一は以て全伊太利人を羅馬化せしむるの方法と爲したり。是の如き巧妙なる政治的策略は智慧に富みたる希臘人の遂に企て及ぶこと能はざりし所なり。

### エバイラス王ピルラスとの戦争 紀元前二八〇—二七二

馬は遂に南部伊太利を征服し全半島を統一に歸せしむることを得たり。當時希臘はマセドニヤに征服せられて自由を失ひたりしもマセドニヤ王アレキサンデルの遠征によりて希臘の文化及び武力は却て前日よりも名聲を高くするに至れり。

り。今や羅馬はサムナイト人に勝ち伊太利半島敢て之に抵抗し得る者なかりしが故に南部伊太利の希臘諸市は大に羅馬人を恐れたり。又たシ、リ島の希臘諸市は亞弗利加の強國カルセージカに蠶食せられて危殆の位置にありしかば交々希臘本部に向つて救援を求むること、なれり。北部希臘の西部エバイラスの王ピルラスはマセドニヤ大王アレキサンデルの遠親族なりき。彼れの父は大の叔父エバイラス王アレキサンデルの從弟にして其の死後を承けエバイラスの王となりし人なり。紀元前三二六—三二二 紀元前二百八十二年南部伊太利に於ける希臘諸市の中最も富有なるタレントムタレントムが羅馬と難を構ふるやエバイラス王ピルラスに來援せんことを求めたり。彼れ年少うして竊かに大志を懷き、アレキサンデル大王の覇圖を西方に試みんことを欲し、先づ援兵三千を遣り。紀元前三八〇—三八一次に自から二万五千の兵と二十頭の象を率ゐて伊太利に上陸したり。紀元前三八〇羅馬人は未だマセドニヤの兵に接戦したるとなく、且つ象を知らざりしが故にヘラクレアの一戦に於て大敗北を爲したり。然れどもピルラスは羅馬兵の死者悉く身を前にして倒れたるを見て歎じて曰く『若し是等の兵をして我が兵たらしめ若くは我をし

て彼等の將たらしめば我れ世界を征服せん」と。翌年アスキュラムの戦に於ても同様羅馬の兵を破りしかども王の損傷亦た甚しく、且つカルセージが羅馬と同盟してシ、リートを攻めたりしかば之を救はん爲め伊太利を去りてシ、リイに轉戦し、二年の後伊太利に歸りて又た羅馬を討たんと爲し、ベチウエンタムの戦に於て羅馬人の爲に敗軍し、遂に一將をタレンダムに遣して本國に歸りたり紀元前二七五。三年の後王死してタレンダム遂に羅馬に降り其他の諸市も相繼で悉く征服せられ北方のルピコン及びマクラ兩川を境としたる伊太利全半島は羅馬の爲めに統一せられたり紀元前二六六。

#### 第四章 海外征服の時代紀元前二六四—一三三

第一ビユートニク戦争紀元前二六四—二四一 亞弗利加のカーセージ羅句カはフイニシヤの殖民地なり。フイニシヤは元來希臘語にてフオイニケと稱し、羅句語のプニクス又はポエニクスは其の轉化にして羅馬人がカーセージ人に名づけたる名稱なり。故に英語にては之をビユートニク戦争と稱す。エバイラス王ピルラスの襲來に際しては羅馬もカーセージも利害を一にしたるが故に聯盟して共同

の敵に當りたり。ピルラスの戦敗れて國に歸りし後、羅馬は伊太利を統一してメッシーナ海峡に達し、カーセージは漸やくシ、リイ島を征服せんと欲し、遂に二大共和國の衝突避く可からざるとはなれり。カーセージは亞弗利加及び西班牙の沿岸に於ける數多のフイニシヤ人の殖民地の首領にして海上的生活を爲しシ、リイ及び西部地中海の諸島に殖民したり。故に羅馬とカーセージとは當時西洋に於ける世界の二大強國にして一はアリアン人種、一はセミチク人種を代表し、羅馬は陸に強く、カーセージは海に強く、前者は其の市民及び同盟を以て兵となし、後者は専ら雇兵によりて戦を爲したり。カーセージも共和國にして君主を戴かず、二人の統領を有し、政權は商業によりて富有なる貴族の手に存し、亞弗利加北岸の西半は彼等によりて征服せられたり。然れども彼等が其征服したる人民を遇することは羅馬人と異にして兩國の成敗に大なる影響を及ぼしたり。シ、リイ島は地中海の中央に位し、此島を征服する強國は地中海の霸權を掌握することを得べき形勝の地にして且つ羅馬と、カーセージとの中間に横はりしが故に遂にシ、リイ島に於て二強國の大戦争を開始せしめたり。是より先きシ、リイ島のシラ

キユース王アガクリースアガトクレス紀元前三二八九は伊太利南部カムバニヤ地方のマメルチーンと稱する人民を雇兵となしたりしが王の死後に至て市民は雇兵の横暴に苦しみ、償金を與へて歸國せしめたり。然るに彼等は途中に於てメッセーナ市を占領し爾來其勢猖獗にしてシラキユースの危険となりしかばシラキユースは之を討平せんことを欲したり。是に於てメッセーナの伊太利人(マメルチーン)は最初羅馬に救援を請ひたりしが其の遅延したる爲に又たカーセーヨに來援を求めたり。是に於て兩國一時に援軍を派出し、其の衝突によりて第一ピユニク戦争は開始せられたり。其の戦争は多くシ、リ島に在りて羅馬人はカーセーヨ人を島外に驅逐しシラキユース王ハイエローを同盟と爲し陸上に於ては概して勝利を得たりしもカーセーヨの海軍甚だ強盛にして羅馬人は未だ艦隊を有せざりしが故に、伊太利の沿岸は敵艦の襲撃を受けて奈何ともすること能はず、羅馬人は始めて海軍なくしてカーセーヨに勝つこと能はざることを知覺したり。是に於て羅馬人はカーセーヨの難破船を模範として五棧戰艦を製造したり紀元前二六〇。其の結果によりて羅馬人は海上に於ても敵國と戦ふことを得るに至りシ、

リ島の南岸エクノムスの海戦に於て全くカーセーヨの海軍を撃破し紀元前二五六進んで亞弗利加に進入したりしが翌年チユニス紀元前二四九の敗軍によりて蹉跌し、開戦後二十三年にして羅馬人は個人的寄附を爲して戰艦二百隻を建造し遂に海戦の大勝利によりカーセーヨをして和を講じ、シ、リ島を退去し大なる償金を拂はしめたり紀元前二四一。

此の戦争の結果によりて羅馬はシ、リ島の大半即ち其の西部を屬領となし、シラキユースは羅馬の同盟國として其の小半即ち東部を領有したり。是れ羅馬が伊太利外に於て屬領を有したる起原なりとす。

第一ピユニク戦争 紀元前二一八 第一回の戦争はカーセーヨの不利

となりて局を結びたり。然るにカーセーヨの名將ハミルカルは到底強盛なる陸軍を有するに非ざれば羅馬に勝つ能はざることを見破り大に地を略し兵を養ひ以て羅馬を討つ根拠と爲さんと欲し長子ハンニバルを携へて西班牙に赴きたり紀元前二〇三。ハミルカルの將さにカーセーヨを發せんとするや神に犠牲を供し其子ハンニバルを招き共に行かんと欲するかを問ひたり。ハンニバル時に年僅

かに九歳なりしが直ちに然りと答へたりしかばハミルカルはハンニバルをして終生羅馬人の友たらしむとの宣誓を爲さしめたり。ハミルカルは西班牙を略してダクス河に達して遂に戦没し紀元前二八女婿ハスドルバル之に代りて統領となり、益々其の版圖を擴張したりしかば羅馬人はエプロ河を以てカーセイジ膨脹の限界と定めたり。爾後ハスドルバルは刺殺せられ古今第一の名將ハンニバルは年二十六にして西班牙に於けるカーセイジ人の首領とはなれり紀元前一。

紀元前二百十九年ハンニバルは不倶戴天の仇たる羅馬に向つて大進撃を爲すの端緒として羅馬の同盟者たりしサガンタム市と戦を爲し遂に之を陥れたり。是より羅馬とカーセイジとの間に十九年の大戦争起り羅馬は一時危急存亡の秋に遭逢したり。是より先き羅馬はアルプス以南のゴール人を征服したり紀元前二二。ハンニバルは彼等が未だ羅馬に心服せずして必ず離叛す可きを知り又たサムナイト人及び其他の伊太利人が相應せんことを期し直ちに伊太利に進入して羅馬の根據を顛覆せんことを企望したり。然るに西班牙より伊太利を襲ふには前路に五個の大困難横はれり。第一ニプロ河以北の蠻族を服従し第二、ピレニ

ース山を超え第三、ローン河の大急流を渡り第四、途上ゴール人の反對を牽制し第五にアルプス山の大険を冒さざる可からざりき。ハンニバルは五万九千の兵を以て西班牙を出發したり。羅馬人は途中に於て彼を防がんと欲し、軍を遣はしてローン河口に到らしめたれどもハンニバルの行軍迅速にして羅馬の軍彼に後ること三日なりき。ハンニバルは奇計を以てゴール人の抵抗を牽制し、山中又た蠻人の攻撃に遭ひしも九日にして山嶺に達したり。時に紀元前二百十八年の十月、天寒く歳晩の雪氷結して山路を埋め、登山の困難に比して降下の危険一層甚しく、饑餓疲勞の爲に日々人馬併び倒れ、十五日を経て山麓に達したるときは五万九千の兵減じて僅かに二万六千人を存したり。今こそアルプス山上には十餘の道路あれども紀元前には野蠻人の外大軍の通過したるは之を以て始とす、而してハンニバルは年二十九なりき。一千七百八十七年ナポレオン第一世が伊太利を征せん爲めアルプス山を越えたる時の年齢も亦二十九なりしは奇遇と謂ふ可し。第一の戦争はポー河北部の支流チシナスに沿ふて闘はれたり紀元前一八、九月。羅馬の軍敗績してハンニバルはポー河を渡り、其の南方の支流ツレピヤに於て又た他の



羅馬軍を破りアルプス以南のゴールより悉く羅馬人を驅逐したり同年十月。北部伊太利全く彼の權下に落ちゴール人皆なハンニバルに應じたり。翌年ユツルリヤに入り羅馬に向つて進行し、ツラシメヌス湖邊に統領フラミニウスを敗死せしめ其の兵一万五千を殺し一万五千を囚にしたり紀元前二一七。是より羅馬人は暫く野戰を避けて専ら防禦の策を用ひハンニバルも兵少なきを以て先づ南部伊太利に進行したり。翌年羅馬の二統領パウルス及びワルローはカンチーに於てハンニバルと戦ひ、パウルスは敗死し羅馬は全軍殆んど覆没して七万の兵を失ひ、ハンニバルは僅かに六千人を失ひたり紀元前二一六。其の結果によりて南部伊太利多くハンニバルに應じたり。然れどもラテン諸市及び羅馬の殖民地は一として羅馬に離叛するものなかりしが故にハンニバルは遂に羅馬城を攻撃すること能はざりき。是より羅馬人は西班牙に兵を遣りてハンニバルの根據地を攻め紀元前二一七、以て其弟ハスドルバルをして來援せしむること能はざらしめ又た遙にハンニバルに應じたるマセドニア王フィリップ五世を牽制して伊太利に進軍すること能はざらしめ、又たハンニバルと同盟したるシ、リ島のシラキユースを征服し紀元前二一六、翌年に

はハンニバルに應じたる南部伊太利の大都府カプアを恢復したり。然るにカーセーヨはハンニバルの連勝を聞て却て之に十分なる聲援を與ふることを怠り彼をして遂に羅馬征服の目的を達せざらしめたり。紀元前二百十一年頃ハンニバルの弟ハスドルバルは西班牙に於て羅馬の將シピオスキ兄弟を破り同二百七年遂にアルプス山を越えて北部伊太利に進入し伊太利の東岸に沿ふて南進し、ハンニバルに使者を遣りしが誤りて羅馬軍に捕へられ、兄弟相合する能はずしてハスドルバルは途中羅馬の大軍に逆撃せられ、メタウルス河畔に於て戦死したり。是より後ハンニバルの位置益々困難なりしが南部伊太利のブルツテム地方に割據して猶ほ四年間支持することを得たり。

シピオ兄弟の西班牙に敗死したる後、バリアス、コルチリアス、シピオコルチリアス、スキピオ敗死したるスキピオの子之に代りて西班牙に赴き紀元前二〇九、ハンニバルの根據地を衝きたり。彼はハスドルバルの伊太利遠征を遮斷する能はざりしも爾後漸次西班牙を征服して全くカーセーヨ人を驅逐するを得たり紀元前二〇六。彼はハンニバルの政策を轉じて却てカーセーヨを進撃せんことを欲し翌年羅馬に歸りて統領の一人に擧ら

れ次年遂に兵に將として亞弗利加に上陸したり紀元前二〇四。カーセーヨは事の急なるを以てハンニバルを召還したり。ハンニバルは三十餘年を経て故郷に歸り戰爭の不利なるを知りて平和の談判を講じたり。然れども談判成らずしてザマに於ける兩雄の大決戦となり、ハンニバルの軍全敗し紀元前二〇二。明年を以て媾和條約締結せられたり。是に於てカーセーヨは西班牙及び地中海諸島に於ける領地を抛擲し、十隻の外凡ての戦艦を引渡し、巨大の償金を拂ひ羅馬人の認可なくして外國と開戦せざる可きことを承諾したり。是よりシビオはアフリカヌスの副名を得又た歴史上に於て大シビオと稱せられたり。

**戰爭の結果**　　ザマの戦は往々近世のウオーターloo 役に比せられたり。ウオーターloo は英將ウエルリントンとナポレオンと初會の接戦にして又た同時に最後の接戦なりしが如く、ザマの役も亦た兩名將初會又た最後の戦闘なりき。ハンニバルもナポレオンと同じく倉卒の間に募集したる新兵を以て戦ひしが故に、古今無双の良將にして却て大敗軍を爲すに至れり。何れも其實は大國民と大英雄の戰爭にして羅馬人中個人としてはハンニバルに勝るものなかりしかども

ハンニバルの大なるを以てしても遂に一致團結したる羅馬人の偉大なるに及ばざりしのみ。前後ピュニク戦争の結果羅馬は伊太利外に於て新版圖を得之を州領プロヴィンスと稱し、伊太利半島と區別したり。伊太利の諸國は羅馬に服従するの義務ありしも尙ほ自治權を有したり。之に反して州領は全く羅馬の屬領にして貢税の義務を負ひ又た羅馬の知事に管轄せられたり。然れども或る市府若くは邦土は特に羅馬の自由同盟として保守せられ時としては伊太利人若くはラチン人の權又は羅馬人の權を與ふることありき。第一ピュニク戦争の結果によりシ、リは最初の州領となり、尋でサルヂニヤ及びコルシカの二島州領となり、第二ピュニク戦争の結果西班牙も亦た州領となりたり。大西洋に面したるガデアカテスは元來フィニシヤ人の殖民市なりしもカーセーヨに競争して羅馬の良友なりしが故に自由同盟國として待遇せられ後には全く羅馬市民權を得有したり。ゴールに於ける希臘市マッシリヤマシも今同様なりき。羅馬人はラチン人を治むるに一の方法を以てし、其他の伊太利を治むるに他の方法を以てし、州領の人民を治むるに更に第三の方法を以てし、被征服者をして各々その利害を一にする

ことなからしめたり。

第二ピュニク戦争は羅馬をして地中海諸國の最強者たらしめたり。元來防禦的戦争なりしも其の終にはカーセージを征服し、西班牙を得有したり。且つ大海軍國となりて地中海上の覇權を有し六十六年を出でずしてマセドニヤ及び希臘を征服し、天下唯一の強國となり、他の諸國は僅かに其の保護若くは放任によりて獨立を保有することを得たり。羅馬は創立以來伊太利を統一するまで五百八十七年を要し、而して天下を統一するには百五十年を出でざりき。

### 東方に於ける戦争

當時羅馬及びカーセージに次で第三の強國たりしはマセドニヤ王國なり。ハンニバルと同盟して羅馬の敵となれり。之を第一マセドニヤ戦争と稱す。紀元前二一五。ザマの役マセドニヤの雇兵はハンニバルの軍に在りて戦ひたり。又た是より先き羅馬人は既にマセドニヤの西隣イリ、ヤの一部を略して其海賊を討平し。紀元前二一九。希臘の諸小國多く羅馬に依頼するの傾向を生じたり。アケイヤ同盟はマセドニヤに依頼したれどもエトリヤ同盟は之に反對し、而して小亞細亞の小國ベルガムスの王アツタロス及びアセンヌ

はマセドニヤ王フィリップ五世に抗せんと欲して羅馬の救援を請求し、第二マセドニヤ戦争。紀元前二〇〇。七は開始せられたり。アケイヤ同盟も遂に羅馬に和し、フィリップは戦敗れて和を講じ、マセドニヤ以外の領地を失ひ、軍兵及び戦艦の數を制限せられ、且つ賠償を出し、僅かに領内に於ける主權を保有したり。

第二マセドニヤ戦争の後羅馬人は希臘人に自由を與へんことを宣告したり。然れども實際は其の宣告に反したり。是を以てエトリヤ同盟は東方の強國シリヤ王アンテオコス三世に羅馬人を歐羅巴に於て攻撃せんことを請求したり。當時カーセージの名將ハンニバルはザマの戦敗後、汝々として國政を改革せんとして却て貴族黨の忌む所となり、羅馬人に追求せられ、遂に脱走してシリヤ王に投じたり。紀元前一九五。彼はシリヤを基礎として東方より羅馬を攻めんと欲し、アンテオコスに策を勧めたれども王は之を用ふること能はずして希臘及び小亞細亞に於て戦敗し、小亞細亞タウロス山以西の領地を讓與し、賠償金を出し、又ハンニバルを引渡すの條件にて和約を締結したり。紀元前一八九。ハンニバルは小亞細亞のピシニヤ王國に投じ、羅馬人に追求せられて遂に自殺したり。紀元前一八三頃。此の戦争に於

て利益を得たるは希臘のアケイア同盟及び小亞細亞ヘルガムスの王ユーメテースにしてエートリア同盟は征服せられたり。羅馬は亞細亞に於て自から領土を掌握することを避け其の征服したる土地を友邦たりしヘルガムス及びロード島に分與し而してアケイア同盟はペロポネーソスの全半島を加盟せしむることを許可せられたり。羅馬は實際に於て希臘及び西亞細亞の霸國となり之を征服するは時間の問題に外ならざりき。マセドニア王フィリッパ五世の子ヘルセウスは父の志を継ぎ恢復の業を圖りピッポナの戦に敗れて囚となりマセドニア王國は羅馬に屬する四個の聯邦となされたり。之を第三マセドニア戦争と稱す紀元前一七一—一七八。後又ヘルセウスの弟と稱したるフィリッポス兵を擧げ又た戦敗してマセドニアは全く羅馬の州領となされたり。之を第四マセドニア戦争と稱す紀元前一四八—一四六。同年アケイア同盟は解散を命ぜられ其の首府コリンスは破壊せられ希臘は實際に於て全く征服せられたり紀元前一四六。然れども其の州領となされしは後年の事なりとす紀元前二七。又たシリヤ王國も其の獨立を保有したれども僅かに社稷を存するに過ぎざりき。此時に際して羅馬と無事なりしは埃及王國のみなりしが

埃及はシリヤ王國及びマセドニア王國の中間に在りて寧ろ羅馬の保護に依頼したり。

### 第二ビュートニク戦争

紀元前一四九—一四六

紀元前百四十六年東方に於てはマセ

ドニヤ及び希臘亡ぼされたりしが西方に於てはカーセージも亦た同時に最も悲惨なる滅亡に屬したり。第二ビュートニク戦争の結果カーセージは殆んど其の國力を消亡したるが如くなりしも其の實然らずして漸次復活し其の商業及び海軍亦た盛ならんとするに至りしかば羅馬は最もカーセージを忌憚したり。前役以來羅馬はカーセージの西にあるヌミデヤの王マッシニサを保護し以てカーセージを牽制するの方便と爲したり。マッシニサは羅馬の保護を恃みてカーセージの領土を侵犯したり。カーセージは之を羅馬に訴へたれども顧みられざりしが故に遂にヌミデヤに向つて開戦したり。羅馬の元老院は之を以て和約の違反となし直に兵をユチカに上陸せしめたり。カーセージは羅馬と戦ふこと能はざるを以て唯だ其命に従はんことを請求したり。是に於て羅馬は先づカーセージ貴族の子弟三百人を收めて質となし次に其の戦艦及び兵器を收めたり。カーセージ人

は悉く其命に従ひたり。然るに羅馬は最後にカーセイジ人民に其の現住所を破壊し海上を去ること十哩の内地に移住すべきことを命じたり。是れ商業を以て命脈とする市民には亡滅と同一なりしかば市民擧て之に反抗し急に城壁を修繕し兵器を製造し婦人は其の髪を切りて弦となし以て開戦の準備を爲したり。羅馬の軍海陸より全市を包圍したりしが三年にして軍屢利あらずシビオ、エーミリアヌス將となるに及び辛うして城中に進入するを得たり。カーセイジ人は城壁既に破れたる後各市街に接戦し各家屋に據り各室内に於て奮闘したり。人口十分の一のみ降参し其餘は悉く戦死し全市焼かれ、カーセイジは亞弗利加の名を以て羅馬の州領と爲されたり。大將シビオはカーセイジの焼かるゝを望見し、榮枯盛衰の常なきを思ひ、いつか羅馬も亦た是の如き運命の日の來らんとを豫想し、カーセイジの詩中よりツロイ落城の句を誦して感慨を漏らしたり。彼は大シビオの子に養はれて其族姓を冒し、又た其戦功によりアフ리카ヌスの綽名を得、少シビオと稱せられたり。カーセイジ人にして若しハンニバルに十分の贊助を與へ擧國一致して羅馬に當りしならば羅馬豈に今日あることを得べけんや。惜い哉。

の擧國一致已に晚しく勇戦奮闘遂に何の甲斐なかりしなり。

### 羅馬の位置

紀元前  
一三三

羅馬は其の征服したる國土を自ら統轄することを急

にせずして寧ろ強國を滅し弱國を存し以て羅馬の藩屏となし最後に之を州領となすの手段を用ひたり。シリヤ王安テオコス三世を服従せしめし以來羅馬は亞細亞に於て大勢力たりしと雖ども未だ直轄の領土を有せざりしが羅馬の恩願を受けたる小亞細亞ヘルガムスの王アッタロス三世は死に臨み遺言して其の領土を羅馬人に讓與したり。紀元前  
一三三。是に於て羅馬は始めて希臘以東に州領を有することゝなれり。羅馬は一方に於て文明諸國を統一すると同時に野蠻民族を征服することを勉めたり。特に西北の野蠻人を征服することは伊太利の防衛に必要なりしが故に伊太利一統するや羅馬は直ちに此の方面に着手したり。

第二ピュニク戦争の時ゴール人はハンニバルに應じて一時羅馬の業を妨害したりしが爾後又た羅馬人は之に着手し紀元前百九十一年までには全くアルプス以南のゴール人を征服したり。又た西班牙は第二ピュニク戦後羅馬の州領に屬したりしも土人慄悍にして羅馬人に從はず戦亂止まざりしが紀元前百三十三

年ヌマンチヤの堅城陥り北部の最も野蠻なる部分の外西班牙全國悉く平定したり。又た羅馬はアルプス以西のゴール人に向つて其の保護に屬するマッサリヤ市を防衛せんが爲めアルプス以西に一帶の地を略し之を其の州領となしたり紀元前。久しからずして悉くゴールの南東部を領し、未だ羅馬に服せざる獨立のゴールと區別せんが爲に之をプロヴェンシヤ州領といふと稱したり。今に佛國の南東にプロヴェンスの名存するは其の結果なりとす。

是の如く羅馬は紀元前三十三年に到りて伊太利、マセドニヤ、希臘、亞細亞、西班牙、亞弗利加の諸國を統治し、地中海は即ち羅馬の一湖水となれり。是れ皆な當時の文明諸國にして國家を成し、市府に住し、法律に服する人民なりき。其の或るものは州領として、羅馬に直轄せられ、其の他は猶ほ各自の王ありて之を支配し、羅馬の指揮を受けたりき。是より後羅馬の膨脹は多く未開の人種に及び、之を征服し、之を感化せしむるは羅馬の天職にして其の大に希臘と趣きを異にする所なり。

### 第五章 革命内亂の時代紀元前一三

羅馬の憲法 王政時代より元老院部族會、軍隊會の三會議存したり。王政時

代に於て元老は最初族長等なりしなるべく後には王に任命せられ共和時代となりては最初統領に任命せられ後には檢察官に任命せられ紀元前三五共和時代最後の世紀には高等官職に就きたる者は形式上の任命を経ずして元老議員となれり。王政時代より其數は常に三百人に限られたり。部族會は元來貴族パトリシヤンのみの集會にして部族によりて票決を爲したり。軍隊會は王政時代の創設なれども共和時代に於ては部族會に代りて勢力を有し、貴族庶民の別なく集會するの權を有したり。此會議は統領及び其他の高等官を選擧し、法律を通過し、戰爭を宣言し、重罪に關する司法權を有したり。此會議に於ては一隊凡そ百人を以て票決の單位となせり、而して軍隊を組織するには貴庶の別なく貧富によりて人民を五級に分ち、最貧多數人民は最下級に置かれ、第一級は九十八隊、第二級、第三級、第四級は各々二十隊、而して第五級は三十隊を出したり。故に第一級諸隊の票決一致するときは下級諸隊の票決を爲すの必要なかりき。庶民勢力を得るに從て區民會なるもの起り、最初は全く庶民のみによりて組織せられ、後には貴庶の別なく凡て此會に參與し、而して市區を以て票決の單位と爲したり。此の民會も護民官及び

其他の官吏を選擧し法律を通過し和約若くは盟約を締結するの權を有したり。然れども二會ともに法律案を提起するの權なく先づ元老院の裁可を得然る後に發案する官吏の資格により或は軍隊會或は區民會に提出せられたり。元老院は元來顧問府なりしと雖ども共和時代となりては殆ど羅馬の最高官府となり統領等は寧ろ其の執行官吏たるが如き位置に立てり。元老院は凡て他の官吏に委任せられざる殘餘權を有し財政外交宗教地方官の任命等一に元老院の掌裡に存したり。王政廢止せられし以來第二ピュニク戦争の終に至るまで羅馬の成功は元老院の政策着實堅固にして能く其の任務に堪へたることを證明したり紀元前五〇九。

### 内亂の源因

羅馬人は天下を征服したる結果によりて其の性質一變し最早や昔日の如く事起れば鋤を捨て、國家の爲に戦ひ事止めは又農に歸する質朴の人民に非ざりき。希臘及東方を征服せし以來文化大に進みたるも同時に希臘化せられ東方奢侈の風に感染したり。羅馬が恐るべき敵國を眼前に控へし間は元老院は實に國家の柱石となりて能く羅馬の生存を支持し又能く羅馬の大業を成

就したり。然れども敵國外患消滅して元老院の性質も亦大に墮落したり。元來羅馬の憲法は一市府の政治に適したるものにして宇内統一の大帝國を支配するに適せざりき。州領の人民は單に臣民たるのみにして伊太利の同盟諸市は各市自治權の外羅馬の政治に參與するの權なく二者俱に大なる壓制の下に生活したり。又た羅馬市民の間に於ては紀元前三百年以來パトリシヤンとプレヒヤンとの軌轢消滅したれども同時に新奇なる階級の競争を生じたり。當時羅馬の官制によれば官吏は皆無俸給にして且つ人民の選舉によりたるが故に富者の外高等官吏たるを得るものなく特に四個の最高等官職に就きたる者は一種の閥族となり概して官職は一年任期制なるを以て一族交る、高位に昇り子々孫々其の肖像を邸宅に裝置するの權を有し是の如き貴紳等は昔日に於けるパトリシヤン及びプレヒヤンの別なく相結托して他の人民と階級を異にするの結果を生じたり。且つピュニク戦争の爲に伊太利の自由農業者大に疲弊しハンニバルに應じたる市民等は其の土地を沒收せられ大地主等が兼併の策を運らし數多の奴隸を役使して牧業に轉じたと海外征服の結果天下の諸國より穀物を伊太利に

輸入したるにより小地主等は其の競争に堪へずして羅馬に移住し、正直なる勞働を爲さず、投票の利益若くは州領の恩澤によりて生活したり。州領制度は伊太利を變じて牧場若くは遊園となし第二ビュニク戦争以來無代價若くは最低價にして穀物を羅馬市民に分配すること益々常習となるに至れり。羅馬の起るや勇敢なる民兵を各地に移住せしめて忠實なる土着の小地主となしたり而して其の墮落したるは全く戦勝の爲めに大地主及び奴隸増加し健全なる小地主の消滅したるが爲なりとす。且つ各種の人民羅馬に來りて歸化し外國人及び解放せられたる奴隸人民等羅馬の市民となり、議會は餘り數多にして殆んど秩序なき群聚となり、國家の機關として其の任務を正當に爲すこと能はざるに至れり。

### グラッカス兄弟の改革

紀元前一三

紀元前三十三年に於て前述の惡弊を

改革せんとの計畫起れり。大シビオ女系の孫タイピリアス、グラッカス、チベリウスは元來新貴族の一人なりしが伊太利の慘狀を見て痛憤し之が改革に従事せんことを欲したり。彼は元來バトリシヤンに非ざりしが故に護民官に撰まるゝことを得たり紀元前一三四。當時元老院專制の時代にして之を掣肘するに適したる官職は

護民官の外なかりしなり。此官は元來昔時貴族庶民の相争ひし時行政官の專横より庶民を保護せんが爲に設けられたる官にして法律の執行を中止し神聖なる不可侵權を有したり。昔日に於ける貴族庶民の争止みたりしも此官依然として存し、グラッカスによりて改革の機關に使用せられたり。彼は伊太利の小地主減少し、羅馬の市民墮落しつゝある状態を改良せんと欲し、貴族等が公田を私用するの分量を制限し其餘を分割して貧民に分與せんと土地法案を區民會に提出したり。貴族等固より之を好まず、護民官十人ありしが故に其の一人をして之に反對せしめたり。民會に於ては護民官悉く一致するに非れば法律通過すること能はざりき。グラッカス百方力を盡くしたれども遂に其の反抗を翻さしむること能はざりしが故に、止むことを得ず民會をして彼を罷免せしめ以て土地法案を通過することを得たり。然れども任滿たざるに官吏を罷免するは從來の憲法に違反したる行爲にしてグラッカスは其の責任を免かるゝこと能はざりき。法律は通過したれども實施すること甚だ難く、而して一旦官を罷むるときは其身危く法律亦た實施せられざらんとするに及べり。故に彼は又來年の護民官に撰舉せられんこ



とを勉めたり。是れ又た從來の慣行に反し貴族黨の反抗により騷擾を惹起してクラッカス及び其黨三百人殺されたり。是に於てか羅馬の改革は憲法を破らざれば履行すること能はざるの實證を現はしたり。

十年の後其弟カイアスクラッカスガイウス兄の志を紹ぎ彼よりも根本的改革を企てたり。彼は才幹意力ともに其兄に卓越し到底元老院政治に向て大打撃を加へざれば國家を救ふこと能はざるを看破したり。當時羅馬の害惡は貴族の跋扈專横にして羅馬の人民も伊太利の人民も共に其專制に苦められたり。彼は貴族の專制を顛覆し、人民の歡心を得たる一人の權下に政府を新に組織するの必要を知覺したり。紀元前百二十三年護民官に撰舉せられ翌年又之に再撰せられたり。彼は先づ低廉に穀物を人民に分配するの法律を制定し次に民會の決議よりにて元老院の司法權を剝奪し又た土地案を通過して其の行政權を信犯したり。彼は羅馬の人民と伊太利の人民とは貴族の專制に對して利害一なるを以てラチン人に羅馬の市民權を與へ、而して他の伊太利人にラチン權を與へんとを主張したり。是に到りて羅馬の市民彼に反對しクラッカスは忽ち其の人望を失したり。翌年貴

族黨とクラッカス黨との間に暴動生し彼れ及び其黨與數百人殺され到底革命の避くべからざることを表明したり紀元前一二一。

### 羅馬の惡政

クラッカス兄弟の失敗後元老院は其の權力を恢復し貴族は其の欲する所を恣にすることを得たり。土地法は無視せられ伊太利の状態は益々弊害を加へたり。然れども彼の兄弟の改革以後元老院の威望權勢は亦た前日の如くなること能はざりき。

貴族擅政の結果内外に種々の亂起り來れり。亞弗利加にはヌミシヤの僭主ジュガルサルヌクユルの亂ありて羅馬腐敗の爲に戰亂治まらざること數年に及べり紀元前一〇一。此の戰爭に於て卑賤なるカイアスマリアスマカカイウスは民望により統領に擧げられ、ヌミシヤを征伐し遂に之を討平したり。同時に北方の蠻人チユートン及びキムブリの二種族アルプス以西のゴールに侵入しプロヴェオンスの羅馬軍敗れ伊太利を擧げて戰慄したり。是に於て羅馬人は年々マリアスを擧げて統領となしたり紀元前一〇〇。是れ亦た未だ嘗て有らざるの慣例にして偶々羅馬人が如何に蠻族の侵入を恐れたるかを知るに足れり。蠻族は伊太利に進入したり

しかどもマリウス兵に將として悉く之を破り其の禍を一掃したり紀元前一〇二〇。一時マリウスの民望熾にして貴族甚だ之を畏れたり。然るに紀元前九十九年クラッカスの餘黨と貴族黨との間に騷擾起り、マリウスは當年の統領として首鼠兩端を持し大に民心を失したり。是時に當り伊太利の不平益々甚だしく、護民官リヴィアス、ドルーサス紀元前一〇一、イ太利人に市民權を與ふるの法案を提出し爲に刺殺せられたり紀元前一〇一。是に於てサムナイト人主として反を擧げラチン人を除くの外伊太利の人民悉く之に應じ羅馬を滅してイタリヤの名稱の下に一大聯邦國を組織せんことを企てたり。之を同盟戦争と稱す紀元前九〇。之が爲に羅馬の人民は一時其の内争を止め力を合せて之が討平に従事し且つ其の舊來の政策を復活シラチン人及び其他反に應ぜざる伊太利人に市民權を與へ、特にリュウシアス、コルネリアス、スルラの戦功によりて終局することを得たり。是の如く羅馬は最早武斷政治に非されは維持すること能はざる可き徵候明白となりぬ。

スルラ及びマリウスの内亂紀元前八八。紀元前八十八年小亞細亞の王ミスリダテイス第六世紀元前八二大に力を擧げて羅馬に抵抗し十五万の伊

太利人を虐殺したり。元老院はスルラを以てポントス征討の將軍と爲したり。然るにスルラはパトリシヤンの貴族にして將軍たり又た政治家たるの才能衆人に秀でたり。民黨及びマリウスは其の己に不利なるを以て東方征討の功を彼より奪はんと欲し護民官サルピシウス紀元前八七は民會に於て遂にスルラの任命を取り消し之をマリウスに與ふるの決議を爲さしめたり。クラッカス以來民會益々元老院の權限を侵犯し、爰に至りて内亂を激發せしめたり。スルラ軍を率ゐて羅馬に進入しマリウスを逐ひ其の黨與を殺し、羅馬の秩序を恢復して東方の遠征に赴きたり。是に於てマリウス黨の一人キンナ兵を擧げてマリウスと共に羅馬に入り貴族黨を殺し其の財産を沒收し殘虐を極めたり紀元前八七。マリウスは惡名を遺して老死したれども其の黨與はスルラの歸來するまで羅馬の政權を擅にしたり。スルラは數年ポントス王と戦ひ、遂に戦勝によりて名譽の和約を締結し紀元前八四伊太利に歸來したり紀元前八三。スルラはマリウス黨の軍を破りて羅馬に入り、再び政權を恢復し永久の總統官となれり。總統官は國家危急の際二人の統領を中止し、一時政權を一人に指揮せしむるの制なりき。彼はマリウスの殘殺に復讐せんが

爲に四千七百人を殺し其の財産を没收し、悉く反對黨を芟除して以て國家の秩序を恢復せんことを欲したり。彼は數多の法律を通過して元老院の權力を強固にし、又た自から總統官を罷め統領に選まれたり紀元前八〇。彼は保守的の人物なりしが故に他の野心なく遂に退隱して死去したり紀元前七八。

### ポム・ベイウスの功業

爾後羅馬の事局益々非にして西班牙にはマリウス

餘黨の亂あり紀元前八二、之に應じてポントス王ミスリテイス再舉を圖り紀元前七四

又劔奴アラビエトルの亂あり紀元前七三。

殘忍なる羅馬人は俳優戰鬪の演舞を以て足れりとせず、捕虜の奴隸をして眞劔勝負を爲さしめ或は猛獸と相闘はしめ鮮血淋漓たる光景を觀て樂したり。劔奴の亂とは即ち是の如き奴隸の叛亂なりき。ポム

ベイウスは西班牙に於て戰捷を得、歸來クラッスと共に劔奴の軍を破り悉く其亂を平げたり。カーセージ亡びて以來羅馬は海軍の設備を抛棄し、而して州領の政治專斷なりしが爲に當時盜賊地中海を横行し其勢甚だ猖獗なりしかば民會は彼に三年間非常の大權を與へて之を討伐せしめたり。然るに彼は三ヶ月にして悉く之を平定したり。是に於てポム・ベイウスは元老院の反對に拘はらず、ミスリテ

テイス征討の將軍に任ぜられ、元老院は最早や人民の輿望に向つて其の無力なるを發見したり。紀元前六十六年ポム・ベイウスはポントス王を討伐し二年にして之をアルメニヤに驅逐し其後王は遂に自殺したり紀元前六三。當時シリヤ王國は衰微の極に達し偶まポントス王の親戚アルメニヤ王チクラチスに屬したりしが故にポム・ベイウスは直に之を征略したり紀元前六四。是に於てポントス、キリキヤ、シリヤ及クリート島は皆な羅馬の州領となり、ポム・ベイウスは大シビオ以來の大功名を荷ふて羅馬に凱旋したり紀元前一。

### 第一次の三頭政治

紀元前六〇

ポム・ベイウスは大功を建て、羅馬に歸りしが

元老院は其權勢を嫉み彼が東方に於ける施政を裁可するを拒み又た其の功勞ある兵士等に土地を賞與するの請求に反對したり。是より先きマリウス黨の一人カイウス・ジュリアス・シーザルカエサルは非凡の才を懷き且つアセンヌの大政治家ベリクリースを理想として羅馬の政治を改革せんと欲し、學術を修め文才と云ひ、能辯と云ひ當時羅馬第一の學者又た古今第一の能辯家と稱せらるゝシセロシセロと顔頤するに足りしかども政治上に志を得ずして初老に近く一時は不平

武人カチリナの隠謀徒黨紀元前六六二にも與みしたるの形跡あり。彼れは從來カイアスクラツカスの政策に倣ひ勉めて政治的方便によりて羅馬を改革せんことを欲したれども羅馬の形勢は到底軍人的政治家の起るを要し、一時武斷政治を以てするの外亂麻を斷つの方法なきことを自覺しボムベイウス東方より歸りし後西班牙に赴きて始めて武功を立てることを得たり。シーザルは歸來紀元前六〇ボムベイウスの元老院に對して不平なるを觀察し、又シーザルの債主にして暴富を有し元老院の半數は其の負債者なりと聞えたるクラッススが同じく元老等に快からざるに乗じて此の二人と相結托し以て元老院の勢力を壓倒せんことを企てたり。三人結合の結果紀元前五九よりてシーザルは統領に擧げられ元老院の不裁可を顧みず人民をして土地法案を通過せしめ以てボムベイウスの兵士等に賞與し又たボムベイウスの東方に於ける施政を裁可せしめたり。又たシーザルは其の女を以てボムベイウスの後妻となし以て一層兩雄の關係を親密ならしめたり。次にシーザルは統領満期の後五年間ゴールの總督に擧げられたり。是に於てシーザル始めて其素志を達するの端を開くを得たり。

シーザルの全ゴール征服

紀元前五八

東方はボムベイウスの功により

て平定したれば當時羅馬の外患は一に北方の邊境に存したり。アルプス以西のゴールガは西班牙の境ピレニース山よりアルプス山及びライン河に至る廣大の土地にして現今の佛國及び自耳義の全部、和蘭及び瑞西の一部、獨逸の一小部分を包含したり。シーザルは八年にして遂に此の全土を征服したり。其結果によりてシーザルの功業はポンベイウスに匹敵し、ケルト民族は永久に羅馬化せられ四百年間チュートン民族の侵入を防遏し、古代文明世界の境界を擴張して文明西漸の爲に道を開き又た羅馬の共和制を變して宇内統一の爲に必要なる帝政の基礎を立つるを得たり。彼は紀元五十五年及び同五十四年兩度ブリテン島今英國を征伐したり。彼は道路を建設し羅馬の風俗習慣を普及し、服従の後は勉めて土人を懷柔するの政策を用ひたり。ゴール征服の成功は實に羅馬人が天下を平定し又た能くこれを悦服せしむる大才能を有したることを最も明白に表證するに足るものなりき。最初シーザルは五年の任期なりしかども其の目的を成就するに足らざりしが故に、更に三人の結合を永續せしめ紀元前五六シーザルは兵士等を遣

はして議會に參列せしめポムベイウス及びクラッスを擧げて統領となし、又た其満期後人民の決議によりポムベイウスは五年間西班牙の總督となり、クラッスはシリヤの總督となり而してシーザルは更に五年間ゴールの總督となり其の偉功を成就することを得たり。

兩雄の競争

紀元前四九  
四八

紀元前五十三年クラッスは東方に於て戦死し、又た

ポムベイウスの妻死し而してシーザルの殊功赫々たるに従ひ兩雄の關係相善からず三頭政治遂に瓦解したり。ポムベイウスは西班牙の知事たりしかども代官を遣りて自から任に赴かず羅馬に在りて元老院と相結び大にシーザルを牽制するの政略を運らし、任期満限の後更に五年間西班牙の總督たることを得たり。是に於てシーザル解任の時に際せばポムベイウスは猶ほ兵權を有し而してシーザル若し一個人として歸來せば必ず危険に遭逢せんと明白なりき。蓋し羅馬の官制は官吏在任中彈劾するを許さずと雖ども解任の後はその責任を問ひ其の不法行爲を追求することを許可したればなり。シーザルは豫め之に備へんが爲め在任中に羅馬に不在なりしかども統領の候補者たらんと欲したり。元老院は一時兩

雄間の平和を希望し兩雄をして兵權を解かんと命じ、シーザルは其命に従はんと欲したれどもポムベイウス聽かずして却てシーザルのみ任未だ満たざるに兵權を解く可きことを命じ之に反抗したる二人の護民官は其の不可侵權を侵されてシーザルの軍に投じたり。是に於てシーザルは護民官を保護し、憲法を支持するの名義を得て其の任地の本據ラヴェンナ北部伊太利の東海岸より兵を擧げて羅馬に進軍したり紀元前四九。事急にしてポムベイウス未だ之れに備ふるの遑あらざりしかば遂に統領等及び元老院議員等と共に希臘に走り、マセドニヤに於て政廳を開きたり。シーザルは六十日にして伊太利を平定し、先づ西班牙を討つてポムベイウスの根據を覆し、又た羅馬に歸りて大に民心を懷けたり。人々皆なマリ阿斯及びスルラの前例に比してシーザルの寛大なるに驚きたり。翌年ポムベイウスは東方の大軍を聚め伊太利を恢復せんと計畫しつゝありしがシーザルは寡兵を以て之れを攻め北部希臘のファルサルスに於てポムベイウスの大軍を撃破したり。ポムベイウスは埃及に奔り遂に國王トレミー十二世の爲に殺されたり。シーザル追ふて埃及に到りポムベイウスの首級を見て涙を流し厚く之れを葬らしめたり。

當時埃及には國王と女皇クレオパトラは埃及の習慣により同胞夫妻たりしが其の間和せずして紛争を生じ交々シーザルに訴へて其の保護を求めたり。シーザルはクレオパトラを立て、小亞細亞に赴き、ポントスを平定し、伊太利に歸りて又た亞弗利加に航し、サプサススタブに於て元老院黨の軍を破り紀元前四六、轉じて西班牙に往き、ポムペイウスの二子及其軍をムンダに破りて悉く敵黨を壓倒したり紀元前四五。

シーザルの經營 是時に於て共和政治は實際上消滅し、シーザル一人の獨裁政治とはなりぬ。ポムペイウスを破りし時羅馬に於ては彼を五年間の統領、終身の護民官、一年間の總統官に擧げたり紀元前四八。サプサス戰勝の後元老院は彼を十年間總統、三年間檢察官となし紀元前四六、ムンダ戰勝の後には之を終身となしたり紀元前四四。彼は元老院の首席に坐して議長の權を有し、又た紀元前四十六年以來終身イムペレトルの稱號を授けられたり。此の稱號は共和時代に於て戰勝を得たる將軍が一時の尊號に過ぎざりしが後世エムペロル(皇帝)の語源となり王號以上の尊稱となりしかども元來は共和制に用ひられ、シーザルに至て始めて永久文武の大權を意味する所の官稱とはなりたり。又た紀元前六十三年以來シーザルは既

にポンチフェクス、マキシムスの官に擧げられ羅馬の宗教に關する政務の總理權を有したり。檢察官としては元老院議員を任命し、護民官としては法律案提起權及び一身上の不可侵權を有し、イムペレトルとしては兵權のみならず、司法權及び行政權を掌り、又帝王の如く貨幣に肖像を印するの權を有したり。是の如く彼は政教文武の諸大權を一身に收攬したる上に種々なる法律及び元老院の決議により元老院若くは人民に協議せずして宣戰講和し、又た地方官を指名し、軍隊會の選舉を指揮する等の大權を委任せられたり。是の如くシーザルは殆んど全く古代の王權を掌握し、元老院は王政時代に於けるが如く單に顧問府となりたりしが猶ほ人民は形式上に於て主權に參與することを得たり。憲法に關する諸法案は必ず人民會議の裁可を得たること即ち是なり。彼が羅馬の大權を掌握してより其死に至るまでは五年半にして其間七大戰役に従事し、首府にありし時日は十五ヶ月にして其最後の凱旋式より死に至るまでは僅に五ヶ月餘紀元前四五年十月に過ぎざりしが彼れの名稱を冠する法律の多くは此の短日月の間に制定せられ羅馬帝國の基礎は此間に確立せられたり。從來羅馬市民は大帝國の君主として猥り

に州領の穀物を分配せられたりしがシーザルは此の弊習を廢し之を轉じて貧民救助法となし、又た王政時代の如く自から裁判を爲し、又た下級裁判より控訴することを許し、天下後世に控訴裁判の模範を與へ、州領に於ける收稅請負の惡制を廢して直接收稅法となし、其他兵制、刑法、地方政治の改革等一として羅馬の天下を一新するに足るの法制ならざるはなかりき。特に州領に移民して一は州領の人民を同化し、一は羅馬の貧民を減少する方法となせり。彼は羅馬の政治家中始めて伊太利と州領との區別を緩和し、羅馬が嘗て伊太利を國家の基礎となしたる如く、今は伊太利よりも廣大なる基礎の上に國家を建設するの必要を看破し、紀元前四十八年北部伊太利のゴール人に市民權を賦與し、アルプス以南を悉く伊太利となした。アルプス以西のゴール人にはラテン權を賦與し、又たゴール人を募集して組織したる軍隊には悉く羅馬市民權を與へ、ゴールの市民をも擧げて元老院議員となし、又た藝術家は其の民種の如何を問はず、羅馬市民權を要求することを許可したり。就中太陽曆の制定紀元前四六は文明諸國が今にシーザルに負ふ所の大功徳なりとす以上三二〇頁參照。

シーザル曆は三百六十五日六時間にして實際より長きこと十一分なりしが故に紀元後一千五百八十二年に曆の年始は眞の時間より後、こと十日なりしかは羅馬法皇クレオパトラー十三世は此の十日を減殺し、四百年に三回二月の閏日を廢し、紀元後一八〇〇、二〇〇〇、二五〇〇年に一日より多くの差なからしむるの改曆を爲したり。新教諸國は久しく之に反對したりしも遂に之を採用したり、而して露國のみは今に舊チヌリヤン曆を用ふるが故に露曆は西洋普通の曆日より後ること十三日の差ありとす。

其他羅馬法の編制、公共圖書館の設備、全帝國の測量、首府に於ける沼澤の埋立及び大營造物の建築等は其の計畫中なりしが、羅馬市民中彼の施政に對して不平なる者も亦少からず、特に彼が殆んど帝王の權を有したれば王號を稱するも亦た近きに在らんとするを見て貴族共和黨は最も憤懣に堪えざりき。

シーザルの死後 是に於て五十餘名の貴族的共和主義者は共和制を維持せんと欲し、自由の名義を以てシーザルを元老院の會議中に刺殺したり紀元前四四。然れども彼等は人民一般の歡迎を得ずして大に窮したるのみならず、皆なシーザルの施政中官職を得たりしが故にシーザルの法律を悉く有效となし且つシーザル黨と調和してシーザルの遺骸を公葬することとなしたるに、此時シーザル黨の一

マルクスアントニウス能辯を振ふてシーザルの功業を稱賛し、民心を激昂せしめたり。是に於てシーザルを刺殺したるブルタス及びカッシウス等羅馬に居ること能はずして東方に脱走したり。是に於て羅馬の權は一時アントニウスの掌握に歸したり。シーザルには正出の子なかりしが其姪の子カイウス、オクタヴィウスは養はれて嗣子となり、改めてカイウス、ユリウス、ケーザル、オクタヴィアヌスと稱し、シーザルの兵多く彼に歸したり。元老院はアントニウスを掣肘せんが爲に一時彼と結托したりしが彼の勢力アントニウスに勝るに至りて更に彼を牽制せんと欲したり是に於てオクタヴィアヌスはシーザルの故智に倣ひ、アントニウス及び故シーザルの部將レピダスと相結んで第二次の三頭政治を組織し、三百の元老及び二千の貴族を殺し其の財産を沒收し<sup>紀元前、次にマセドニアに於て大軍を聚めたるブルタス及びカッシウスを討滅し</sup><sup>紀元前、次にマセドニアに於て大軍を聚めたるブルタス及びカッシウスを討滅し</sup>天下を三分してアントニウスは東部、オクタヴィアヌスは西部、レピダスは亞弗利加を分轄することとなしたり<sup>紀元前、後年レピダスはオクタヴィアヌスと争ふて其の勢力を失し、其の領分を併せられ、是より三頭制瓦解してアントニウスとオクタヴィアヌスとの確執となり、遂に希臘アク</sup>

チュウムの海戦に於てアントニウス敗績し<sup>紀元前、埃及に走りて自殺したり</sup><sup>紀元前、埃及の女王クレオパトラは既に大シーザル及びアントニウスを惑はし、遂に羅馬の大女王たらんと欲してオクタヴィアヌスを試みたれども彼は女王の術中に陥らざるのみならず、彼女を囚虜となして羅馬に凱旋せんとの計畫あるを知り、遂に自殺し、埃及は羅馬の州領と爲され、オクタヴィアヌスは羅馬に歸りて、ダルメシヤ征服、アクチュウムの勝利及び埃及平定の爲に三重の凱旋式を行ひたり</sup><sup>紀元前、</sup>

## 第六章 羅馬大帝國 紀元後二九—四七六

帝國の憲法 オクタヴィアヌスは大叔父の運命に鑑みて自ら警戒を加へ、公然急激に政體を變更せんとするの危険なるを知り、勉めて共和制の形式を存せしめたり。然れども叔父の例に倣ひて漸次イムペリトル、<sup>センヤル、トリビウン、ポンチファクス、マキシムス</sup>檢察官、護民官、大教、正及び元老院の首長となり、又たアウガスタス<sup>アウグスツスと稱せられたり。昔時王政の廢止せらるゝや其職を分割して二人の統領に賦與し、又た其職を分割して檢察官其他の官を設けたりしが今や是等の諸官は又た一人の掌中に集注せられたり。然れどもアウガスタスは帝王の虚飾を張らず、勉めて質素簡易を旨とし、單に共和</sup>



國の元首として政を行ひ、代々の君主は元老院に選舉せられて特定の權力のみを賦與せられたり。モムセンは此の政體に附するに二權政治の名を以てしたり。例へば英國現今の政體に似て唯だ二權の關係顛倒せるを見るのみ。英國にては君主は形式にして其の實權は議會に存すれども、羅馬帝制に於ては形式は共和にして實權は一人の君主に存したり。アウガスタスは萬機を總攬し、獨裁に施行し元老院及び人民をして其の命令に服従することを習慣となさしめたり。時としては辭職を發言して彼れの缺く可からざることを認識せしめ、益々元老院及び人民をして己れに依頼せしめたり。

### 帝國の版圖

アウガスタス天下を平定してより更に邊境の蠻族を征討し羅馬の版圖は東はアルメニヤの山脈、タイグリスの河流、及びアラビヤの沙漠より西は大西洋に至り北はブリテン海峽、ライン及びダニュープの二大河流、黒海及びコーカソスの山脈より南は亞弗利加の大沙漠に至り東西凡そ二千七百哩餘、南北平均一千哩に達したり。伊太利の外は二十七州に分ち其中重要なる部分はアウガスタス自から直轄して其の總督を任命し其他は元老院の管轄に屬したりと雖ど

も彼は是等の州に於ても自己の官吏をして總督を監督せしめ州領人民の歎聲に耳を傾けたり。伊太利には一萬の親衛隊あり而して邊境には二十五軍凡そ十七の常備隊ありて平和を維持したり。羅馬の版圖が伊太利のみなりし間は羅馬の元老院及び人民會議にて其の任務に堪へたれども風俗習慣言語宗教を異にする萬國を支配するに至りては其の任務に堪ゆる能はずして州領の人民は非常なる虐政の下に呻吟したりしが此に至りて始めて公平なる政治の下に管理せらるゝことゝなれり。且つ凡ての伊太利人は羅馬の市民となりしが故に羅馬の元老院及び議會は僅かに羅馬市民中的一部分となり所謂羅馬市民も州領の人民も共にアウガスタス専制治下の人民にして政治上の自由に於て左まで異なる所なきに至れり。帝政となりて羅馬人民は其の自由を失ひたれども州領の人民は概して共和時代よりも善良なる施政の下に幸福を享有し或る地方にてはアウガスタスを神として崇拜したり。アウガスタスは此上版圖を擴張するを以て危険なりとし既に得たる所を維持するを以て一定の政策となさんことを遺言したり。

### 初期の帝政

紀元後二九  
一六

アウガスタスの治世は羅甸文學の黃金時代にして

ヴァーナルウィルギ、ホレーヌ、ウラチ、オウイッド、オウスイ、リウィー、ウスイ等の詩人輩出し  
 帝及び宰相共に文學者を獎勵したり。故に後世文學盛大の時期をアウガスタス  
 時代と稱するに至れり。アウガスタスは七十六歳にして死し、養子タイベリアス  
 チベリ一四嗣ぐ紀元後。彼は先帝の時より國政に參與したり。故にアウガスタス死  
 するに及びて元老院は直に彼に與ふるにアウガスタスと同一の權力を以てした  
 り。彼の治世は二十三年間紀元後一四—三七にして最初の十五年は善政を施し、令名を  
 博したれども、後年は頗る暴虐専横を極めたり。視衛隊跋扈の兆既に現はれ、共  
 和の形式益々廢滅に屬し、法律の裁可權も元老院に移されて、人民會議は無用に屬  
 したり。次帝カリキュラ三七—四一紀元後 立ちしが殆んど狂人にして、暴横甚しか  
 りしかば、親衛兵の武官等遂に之を弑したり。是に於て元老院は政權を握らんと  
 したりしかとも、先帝の叔父クラウディウスは既に親衛兵に擁立せられ、人民亦た君  
 主を要求し、元老院は奈何とも爲す能はずして、之に服従したり。  
 クラウディウス紀元後四一—五四は自から政を爲す能はずして、之を其妻妾若くは臣僚に委  
 任したり。彼はブリテン島今英國に渡り、該島征服の業を創めたり紀元後四三。彼はゴ

ール人に恩を施して、多く羅馬市民權を與へ、州領の父と稱せられたり。遂に其の  
 後妻の爲に弑せられたり。

次帝ニロー紀元後四五—六八は先帝の養子にして、母後の恩により、位に即くことを  
 得たり。彼はアウガスタス及びマルクス、アントニウスの血統を承けたれども、祖  
 先の惡質のみを遺傳したるものか、羅馬諸帝中第一の暴君なりき。最初五年間を  
 除けば、彼の治世は殆んど重罪を以て充されたり。彼は其母を殺し、其妻を殺し、其  
 師セチカを殺したり。紀元前六十四年大火ありて、羅馬は大半焼失し、而して帝は  
 放火者なりとの嫌疑を受けたり。帝は其罪を猶太人及び基督教徒に歸し、桀紂も  
 及ばざる殘酷の方法を以て、教徒等を死刑に處したり。是れ基督教始めて歴史の  
 表面に現出したる時にして、其の教祖基督はアウガスタスの治世中猶太に生れた  
 り。元來西洋の紀元は紀元後第六世紀基督降誕の年を基礎として定められたれ  
 ども、一千年を経過したる後、少くとも三、四年の差あること發見せられ、基督の生  
 誕は紀元前四年なりとするを以て、史家の通説となす。

紀元前六十八年州領の諸方に叛亂起り、羅馬の市民及び軍隊離叛し、ニロー遂に

自刃して死す。是に於てジュリアス、シーザルの血統絶え、帝位繼承の困難なる問題を生じたり。元老院は最初西班牙の總督ガルバを擧げたり紀元後六八〇。然れども彼は節制嚴にして惠與少なかりしが爲に親衛隊の人望を失して弑せられ、親衛隊はオソ（オットー）を立て帝位に昇らしめたり紀元後六九〇。然れども日耳曼邊境の軍隊は之に服せずして其將ヴァイテリウスを擧げ、伊太利に向つて進軍し、オソ及伊太利の軍隊を破り、遂にオソをして自殺せしめたり。是時東方には猶太人叛し、ヴェシアン之を征討しつゝありしが其軍隊は遂に彼を擧げて帝となし、其の部下の兵先づ羅馬に入り、ヴァテリウス遂に死に處せられたり紀元後六九〇。

### 帝國の全盛

紀元後六九〇—一九二

ヴェスベシアン、ヴェスベシアン、シウス帝紀元後六九〇—七九は英邁の君主にして軍隊の節制帝國の秩序を恢復し能く天下を治めたり。彼はシーザルの

子孫に非ず、貴族のみに非ず、唯だ其將軍、善總督たるの資格のみを有したり。故に勉めて善政を施すを以て秘訣とし、元老院を尊敬して其の組織を改革し、質素簡易を旨とし、勤儉節制の善政を施したり。其子タイタスマスは猶太を平け、遂に父の位を繼いで帝となれり紀元後七九〇—八一。彼は父の武材を有し且つ寛厚仁慈にして凡

ての人に愛せられたり。其弟ドミシヤンドミチアヌスは兄弟と異にして殺を好み、遂に其臣下に弑せられたり。是時ブリテン島の征服功を奏し、帝國の邊境は蘇格蘭に接したり紀元後八一〇—八四。

先帝弑殺の後、元老院は老議員チルバを皇帝となしたり。彼は寛仁にして人皆之を愛したり。時に親衛隊は先帝の弑殺者を捕へて死に處したり。チルバは彼等の專横を制止せんと欲し、ライン軍の將にして英邁なるツレージャンツラヤを養子となしたり。チルバは治世十七ヶ月にして死したり紀元後九六〇—九五。是れ即ち諸帝能者を擧げて繼嗣となすの始にして、當期の全盛一に此の秘訣に存したり。ツレージャン紀元後九八〇—一〇一七は羅馬人に非ず、又た伊太利人に非ずして始めて帝位に昇りたる人なり。彼は西班牙人にして全く才能によりて昇進したる人なり。從來羅馬人に輕侮せられたる州領の人にして帝位に昇るを得るに至りたるは、以て伊太利と州領との間、漸次平等にして帝國の統治は如何に人才を必要となしたりしかを知るに足れり。ツレージャンは武帝にして、兵士能く之に懷き且つ勤儉質朴にして、人民皆之に服したり。紀元後百一年、彼はダニユール河を渡りて河北の

地デシヤを征し遂に之を州領となしたり紀元後一〇七五。又た東方バルシヤを征伐し歸途キリキヤに於て死す紀元後一〇七五。ハドリヤン後一〇七五。紀元帝位に即く。彼は平和を好み東方に於ける先帝の侵略地を抛棄して羅馬に歸り、征戰を事とせずして専ら州領を巡察し、全帝國の治安を圖るを以て第一義となせり。彼はゴールの人アントナイナスニアヌトを養ふて子となし彼をして位を繼がしめたり。アントナイナスハ一八一は父帝に事へて孝心厚かりしが故にバイアスと稱せられ人民の父として敬せられたり。彼は先帝の命によりマルクス、アウレリウスを養ふて子となしたり。アウレリウス紀元後一八〇は哲學者にして賢名高く帝國漸やく多事ならんとするに際し能く其の重任を竭くしたり。此治世に當りて北方の蠻人羅馬の邊境を窺ひダニュープ及びライン地方に進入したり。帝自から之を討伐しヴェンナに於て軍中に死したり紀元後一八〇。彼は他に譲る可き人才を得ざりし爲か其子コンモダスに讓位したり紀元後一九〇。不幸にして彼は父帝に反し暴虐にして遂に宮中に弑せられたり。是より帝政漸く衰微の時代とはなれり。

羅馬の衰世紀元後一九〇。三六三。コンモダスの死後元老院はベルチナクスを以て皇

帝となしたれども三ヶ月にして親衛隊の爲に弑せられたり。從來皇帝は先帝之を指名し而して元老院之を裁可したりしが此後九十二年の間皇帝は専ら軍隊によりて任命せられたり紀元後一九三。此間皇帝廿五人在位平均四年に滿たずして十帝は軍隊の爲に弑せられ、在位十年以上は僅かに二帝のみなりき。今や邊境の患益々急にして皇帝は同時に武將たらざる可からず而して羅馬に逸居すると能はざりしが故に、元老院は其權を失し軍隊は愈々其權を加へたり。時としては帝國の各地にある軍隊皇帝を立て、數帝同時に位に立ちしことあり。セプチミウス、セヴェルス紀元後一九三は稍、秩序を恢復することを得たり。次帝カラカルラ一カルス紀元後二一七は暴君なりしが彼れは其の軍隊に支給するの必要上高税を得んが爲に全帝國の人民に羅馬市民權を與へ、伊太利と州領との區別全く一掃せられたり。此後皇帝は多く昔時野蠻人と見做されたる民族の中より出でたり。ダイオクレシヤン元後二八四一三〇五は其の最も偉大なるものにして元來イリ、ヤ人なりき。彼は軍隊によりて擁立せられたり。彼は賢明にして帝國二個の禍源を防がざる可からざることを看破したり。一は野蠻人に向つて帝國を防禦するこ

と、一は軍隊に向つて皇帝を保護することは是なり。彼は皇帝の權を分割するとき以上は以上の二目的を同時に成就することを得べしと爲し、他に一人の將軍を擧げて皇帝となし以て帝國を分轄し紀元後二八五後ちに又た副帝二人を加へたり紀元後二九三。正帝二人はアウガスタスと稱し副帝二人はシーザルと稱し正帝の位を繼がしめ、軍隊猖獗の原因を杜絶せんことを欲したり。皇帝數人あるときは一人を弑するも其益なく是より大に皇帝弑殺の害を除くことを得たり。是時に當り邊境の患多くして羅馬は漸く帝國の中心たる位置を失したり。元老院此に在りしと雖とも皇帝は多く邊境に近き都會に住したり。ダイオクレシヤンは小亞細亞のニコメディアに在りて東方を支配し、彼に擧げられたる正帝マキシミアンマキシムは北部伊太利のミランに住して西方を管理したり。ダイオクレシヤン帝は共和國皇帝の風習を改め漸次專制國君主の方法を採用し、一は以て皇帝の一身を全うし、一は以て帝國の安寧を保つ具となしたり。是より羅馬帝國は純然たる專制君主制にして元老院は羅馬市の參事會となり、二權政治は全滅に屬したり。ダイオクレシヤン帝は在位二十一年にして位を辭したり紀元後三〇五。爾後正副諸帝の間に争亂

起りしが紀元後三百二十三年コンスタンチン大帝コンスタンス再び天下を統一するを得たり紀元後三三〇。彼は前の副帝コンスタンチウスの子にして紀元後三百六年アリテン島の軍隊により副帝に擧げられ、羅馬帝國には一時六人の正副皇帝あるを見たり。是時基督教益々天下に弘まり各市に於て其會堂あらざるはなく累代の皇帝屢々之を禁止し無殘の迫害を加へたれども其功なかりき。皇帝は基督教と國家とは相容れざるものと思惟して痛く之を撲滅せんことを免めたり。コンスタンチン大帝に至りては其の政策を一變し基督教を公許し紀元後三一三十字旗の功德によりて反對の諸皇帝に勝ち天下を統一するに及び詔を發して帝の例に倣ひ基督教を奉信せんことを諭示したり。是より後セネドシアス一世の時異教は禁止せられ紀元後三九〇、羅馬帝國は基督教を以て唯一の國教となし漸次基督教會の性質一變したり。羅馬迦特力教カトリックの起原實に此時に在りと言ふとを得べし。コンスタンチン大帝の時帝國は三大變化を爲したり。一は國教の變化したると、二はダイオクレシヤン帝の創業を完全ならしめ元老院及び統領全く虚職となり君主專制大成したると三は首府をビザンシオムに移し更に造營して之に新羅馬の名稱を

附したると三紀元後是なり。新羅馬は爾後コンスタンチノールと稱せられたり。彼は軍制を改めて其の節制を正うし又た州領を大小の區畫に分ち文武の職を二途にして地方總督の反亂を防ぎたり。紀元後三百三十七年帝死して帝國を三子に分ちしが後又た一に歸し紀元後三百六十三年まで天下は其の系統によりて支配せられたり。

**蠻人の進入、羅馬の滅亡**三紀元後三六四—三七六 過去百卅年間日耳曼人は羅馬の邊境

を窺ひたれども帝國の兵備嚴にして擊退せられたり。然るに帝國の後期となりては帝國外の蠻族漸く軍隊に編入せられコンスタンチン大帝以後は殆ど軍隊の多數は蠻人を以て充たされたり。當時北部亞細亞の大平原に種々なる民族の變動ありて匈奴歐羅巴に進入し帝國の北境に接しゴス民族の上に壓迫し來れり。紀元後三百七十六年ゴス民族はダニユール河を渡りて帝國の中に入るとを許されたれども官吏の不注意によりて謀反し皇帝ワレンス之が爲に戰死したり。紀元後三七八 皇帝セオドシアス一世テオドシウスはゴス人を分離せしめて半は之を驅逐し半は之を服従せしめたり。是の如く蠻人は既に羅馬帝國內に移住して心腹の

患となるに至れり。セオドシアス一世は一時全帝國を統治し紀元後三九四たれども其

死に至り二子アルケデウス及びホノリウス東西を分轄し是より永久に東西二帝國に分裂したり紀元後三九五。紀元後四百十年西ゴス人の會長アラクイタ利に進入

し羅馬を圍みて之を陥れたり。然れども彼れは王國を建設すること能はざりき。次の會長アタウルフは皇帝ホノリウスの妹を娶り皇帝の委任と稱して南部ゴール及び西班牙に進入しゴス人の王國を建設したり紀元後四一二。是れ羅馬帝國に於て蠻族が其の王國を創立したるの始なりとす。

ゴス人と羅馬人との調和は雙方の幸福とはなりぬ。ゴス人よりも恐るべき亞細亞の蠻族匈奴の會長アツテラ紀元後四三三—四五三ゴールに進入したり。紀元後四百五十二年羅馬人及びゴス人は兵を合せてシャロロンに戰ひ之を破ることを得たり。然れども翌年アツテラは伊太利に進入し羅馬の都城は僧正レオの使命成功して僅かに陥落を免かるゝことを得たり。紀元後四百五十五年曩きに歐羅巴より亞弗利加に經過したる蠻族ワンダル人の會長ガイセリク羅馬に入りて其の財を掠め去りたり。是時に當りゴス人は西班牙及び南部ゴールを略し、バルガンデアン

人は中部ゴールを略し、フランク人は北部ゴールを略し、アングロサクソン人今の英吉はブリテン島を略し、フンダル人は亞弗利加を略し、西羅馬帝國は殆んど瓦解したり。伊太利にも蠻人侵入して皇帝の廢立を左右し、遂に皇帝ロミュラス、アウガステユラスを廢し、日耳曼民族の長オドヴァール東羅馬皇帝の代官として伊太利を治めたり紀元後四七六。蠻人等猶ほ帝國の威嚴を敬畏して自から皇帝と稱することなかりしは羅馬帝國の餘光なりと謂ふ可し。是より東帝國のみコンスタンチノールを根據とし中世の間猶依然として存し紀元後一千四百五十三年土耳其人の爲に滅ぼされたり。西部に於ては紀元後八百年フランク王シヤールメーン西羅馬皇帝となり、爾後神聖羅馬帝國と稱し第十九世紀の始まで其の名稱を存し皇帝は西歐羅巴に於て唯一人のみなりしがナポレオン獨逸伊太利を蹂躪し一千八百四年皇帝と稱するに至りて名實共に亡び神聖羅馬皇帝は奧地利國皇帝と改稱せられたり一千八百零六年。羅馬の影響如何に深遠悠久なりしかは以上の事實によりて其の一斑をトするを得べし。

## 西洋上古史終

十二

十二

駿河	午
明	分
治	十
堂	八
本	本



終

